# 三角三兄妹inポケットモンスター

壱逢のアルキニスト

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

三角三兄妹がポケモンの世界で巨大な悪を時には改心させ、時には完膚なきまでに叩きのめし仲間を増やして旅をする物語

これは作者の自己満足です『これはアカン』や『こいつはこんなキャラじゃない』は一切受け付けませんのであしからず

追記、超々不定期、イッシュのトレーナーに慈悲はない、オリジナル技あり、ひでんマシン涙目、歴代悪の組織は一部ヤバい保護団体特にエーテル財団とマグマ＆アクア団

# 目次


第1回プロローグ ―― 1
第二回寝坊助とナルシストと初心者用ポケモン（笑） ―― 4
第三回兄妹の再開とルナの居場所と最高神 ―― 9
第3回門前払いと傷付いたポケモンと進化 ―― 13
第4回懐かしき鰐とサカキと密猟者 18
第五回ララの思い、岩のニビジム 23
第6話お月見山の戦い、ピッピ達の楽園 ―― 34
第七話世界のおてんば人魚…水のフィールドオシリス対スターミー ―― 40
第八回世界は君を待っている、祝え!!新たな命の誕生を!! ―― 47
第9話ポケモンマニアとアローラロコン ―― 52
第10話はるばる来たボール ―― 57
第11話最凶復活!?ルナメタル対ライチュウ ―― 60
第12話サントアンヌ号よ永久に…〇〇〇に何か落ち度でも？ ―― 65
第13話あの門番サボってるよね？格闘

道場キルリア&ピジョン対サワムラー&エビワラー ―――― 70
第14話タマムシ火災!?クサイハナを救え ―――― 75
第15話図鑑パワーアップ ―――― 80
第16話眠れる通路のデカい奴 ― 84
第17話忍者対決!!シキ対ゴルバット 88
第18話優希inサファリパーク 93
第19話マサキからの呼び出しとカントーよ暫しの別れだ ―――― 98
第20話オーキドよりヤバい奴!!その名はプラターヌ ―――― 102
第21話サカキより過激な男その名はカエンジシとついでにルナ対メガサーナイト ―――― 108
第22話優奈だけちょっと寄り道編その壱とりあえずアルセウスはシバキ殺そうの巻 ―――― 113
第23話神対馬鹿、コトブキ村よ永遠に… ―――― 119
第24輪サイクリングロード!!VS自転車暴走族 ―――― 125

# 第1回プロローグ

この世界にはポケットモンスター縮めてポケモンがいる…可愛いポケモン、格好いいポケモン、怖いポケモン、美しいポケモン等様々なポケモンが生息し人間と共存しバトルをしたり、コンテストやミュージカルをするものや群で生活していたりしているもの、心ないトレーナーにより傷つき保護団体に保護されているもの、幻と呼ばれ神と崇められている等々

???「そろそろ儂の出番じゃな、儂の名前はオ―キド、皆からはポケモン博士と呼ばれておるが儂は只のポケモン好きなじいさんで十分じゃ」

じいさん、話進めて

オ―キド「そうじゃな、今から君達は夢とロマンに溢れる冒険の旅にいくのじゃ!!」

引きこもりたい

オ―キド「まぁ君達はポケモントレーナーになって色んな世界を見て感じて体験するのじゃ!!」

仕方ない…やりますか

オ―キド「うむ、いい返事じゃ!!ところで君は男の子かな?女の子かな?それと君の

名前は何かな?」
女の子で優希
オーキド「ゆうきちゃんか!!そして、こいつは君の幼馴染みでライバルで儂の孫でもある、はて?名前はなんじゃったかの?」
孫の名前忘れるとか最低な爺だな病院行くか?腕はいいのだがゲイの医者を紹介するぞ?
オーキド「健康そのものじゃ!?ところで誰じゃ!!さっきから頭の中で喋っているのは!!」
???『ｓｏｒｒｙ、俺は優希の兄で今は霊体の優奈だ、まぁすぐに合流するから生き霊みたいなもんだ‼』
オーキド「幽霊とな…はじめてだわい」
優奈『可哀想だから言うが孫の名前はシゲルだからな』
オーキド「そうじゃった!?最近研究が忙しくてな…たまには孫とコミュニケーションをとらんとな…」
優奈『まぁ、ガンバりんしゃい!!』
オーキド「他にシゲル以外にも幼馴染みがおってな確か…サトシじゃったか」
優奈『自分の孫は忘れているのに孫の幼馴染みは覚えている…こりゃシゲル君は早い

反抗期行きは確実だね』

オーキド「なんじゃっと!?どうすればいいのじゃ!?」

優奈『この会話を包み隠さずいって許してもらいなよ、無理だったらゴメン』

オーキド「そうじゃな…」

優奈『爺、誰かが来たみたいだぞ‼俺のファンは次の次まで会えないが寂しくて泣くんじゃないぞ‼じゃあね～～♪』

オーキド「今日は早いの?うおっほん!!ゆうきよ…これから夢と冒険の世界へレッツ、ゴー!!また、後で会うけどのう」

～～～♪

新しくトレーナーになった優希…あれ?一人足りないの?次回は寝坊助とナルシストと初心者用（笑）ポケモンを気長にお待ち下さい

# 第二回寝坊助とナルシストと初心者用ポケモン（笑）

ここは、はじまりの町マサラタウン…まっさらな色、全ての始まりと言われる町にある一軒家に彼女はいた…

優希「いって来まーす‼」

彼女は優希、腐れ外道マッド鈴木の実験に巻き込まれてこの世界にやって来たようだてくてく

優希「オーキド博士～」

オーキド「おお、きたか!!」

優希「旅に出たいからポケモン図鑑頂戴!!」

オーキド「ダメじゃよ、まだ来とらんからな」

優希「は～い!!」

カタッカタッ

優希「博士？ボールが荒ぶっているけど何が入っているんですか？」

オーキド「ああ、こいつは知り合いの博士が貸してくれた確か…メタグロスだったかのう」

優希「メタグロス!?博士、出してもいいですか!!」
オーキド「構わんが散らかさぬようにな」
優希「わかりました‼出て来てメタグロス!!」
メタグロス「メタァァァ!!」
鳴き声？気にするな!!
優希「貴方…メタグロスのルナメタル？」
メタグロス「メタ♪」
優希「やっぱり!!お兄ちゃんのルナだ‼久しぶり!!」
ルナ『久しぶりでございます、妹殿』
優希「今のはルナ？あなたなの？」
ルナ『左様、優奈殿から妹殿のパートナーになるよう頼まれましてやって参りました』
オーキド「なんじゃ？知り合いかの？」
優希「はい!!この子はお兄ちゃんの相棒のメタグロスなんです‼」
ルナ『今はゲッコウガのシキが相棒らしいです…私は捨てられてしまったのです‼』
優希「いやいや!?お兄ちゃんはそんな事しないから!!ルナ…貴方はそれでいいの!!」
ルナ『私はいいのです…これからは優希殿のパートナーとして共に行きます‼』
優希「オーキド博士、この子連れていきますね」

オーキド「なんじゃと!?仕方ない…たまには帰って来ておくれよ」
優希「気が向いたら帰って来ます」
???「素晴らしい茶番をありがとう」
優希「あら？只の七光りで博士に忘れられたシ～ゲル君じゃない♪お元気？」
シゲル「まあまあかな、優希、こいつはぼくこそがふさわしいぼくに譲ってくれないか？」
優希「だって？どする？ルナ？」
ルナメタル『テニヌでｏｋ？』
優希「大丈夫じゃない？」
シゲル「決まりだね『何勘違いしてんだ？こいつは俺のだバカたれ』誰だ!?」
???「通りすがりのトレーナーだ…博士、この世間知らずはコイキングでいいんじゃないか？」
オーキド「お主、次回まで出ない筈じゃろ!?」
トレーナー「暇だからだ‼さて、ここにコイキング、コイキング、ゼニガメのボールがある、どれか一つ選ぶがよい」
オーキド「勝手に進める出ない!!」
シゲル「左のボールでいいです」

シゲルはゼニガメ（コイキング）を手に入れた‼
シゲル「コイキングじゃないか⁉」
トレーナー「ゼニガメはニックネームだしい～まさか本当にゼニガメだと思ったの～ぷぷ～マジウケる～」
シゲル「頭にきた‼勝負だ‼」
トレーナー「ヤるか…」
一方、サトシは寝坊したが着替えて向かっていたてくてく
オーキド研究所の庭
オーキド「これより、儂の孫ことシゲル対トレーナーの試合をする、戦闘不能で勝敗とす…始め‼」
シゲル「頼むぞ‼ゼニガメ‼」
トレーナー「行け、シキ」
シキ『どうもハジメマシテ』
シゲル「ゼニガメ‼体当たり‼」
トレーナー「かわして低威力水手裏剣」
シキ『南無三‼』

オーキド「コイキング戦闘不能、シキの勝ち!!よって勝者トレーナー!!」
シゲル「何かの間違いだ‼そうだ!!お前インチキしただろ!!そうだそうにちがいない!!」
トレーナー「図鑑みる?こいつは強いぞ～」
シゲル「卑怯者の図鑑何てみないよ‼じゃあね～」
トレーナー「やはりルナを出せば『メタァァァ!!』ルナ!?」
一方、サトシはシゲルに絡まれていた…続く
～～～♪
次回は、兄妹の再開とルナの居場所と最高神を気長にお待ちください

# 第三回兄妹の再開とルナの居場所と最高神

前回のポケモンは…
ルナ盗まれかける
謎の優奈現る
ニンジャ現れる
ルナ『本編に行こう』
ここはオーキド研究所
優希「お兄ちゃんなの?」
優奈「だぞ～」
オーキド「儂はオーキドじゃ」
優奈「うっさい、更年期」
オーキド「誰が爺じゃ!?儂はまだピチピチじゃ!!」
三角兄妹『おろろろ』
ニンジャ『主君、拙者はどうすれば?』
優奈「適当に寛げば?」

ニンジャ『承知した』
優希「お兄ちゃんはどうやって来たの?」
優奈「それはな～」
話は少し前に遡る
～～～♪
優奈「やっほ～隼人」
隼人「妹がポケモンの世界に行ったのに普通じゃの～」
優奈「隼人の事だから何かしてんだろ?」
隼人「まぁの、主のメタグロスとゲッコウガを手持ちにするように『悪いがゲッコウガは俺にしてくれないか?』構わないがなぜじゃ?」
優奈「少しな…最近ルナに甘え過ぎていたからな…そういや他のやつらは?」
隼人「つづけば自然と仲間になるわい」
現在
優奈「という訳」
優希「ルナに説明しなよ‼ルナはお兄ちゃんに捨てられたって言ってたんだよ!?」
優奈「何!?ルナ!!黙っていてごめん!!さぁ!!バレパンするなりサイキネからのシャドボしつつコメットするなり好きにしろ!!」

普通は逝くからな
ルナ『マスター…許しますが次はサナと壁テニヌしますからね♪』
優奈「次にならないように善処します…（サナとルナの壁テニヌは死刑宣告だからな…）」
一方我らがサトシはなんとかシゲルから逃げれたようです
優希「さてと、お兄ちゃん行くよー」
優奈「うい～」
オーキド「ほれ、ポケモン図鑑とモンスターボールと少しの小遣いと儂が履く明日のパンツじゃ」
奈希『小遣いありがとう!!だけどパンツにいりません!!』
ようやくサトシが到着したようです
???「博士!!ポケモンある!?」
オーキド「サトシか、残念だが無いのう」
サトシ「そんな～」
優奈「んじゃね～そいえば、博士そこにボールあるからよろ」
オーキド「わかったわい」
てくてく

こちらは1番道路二人はメタグロスに乗って移動していた
優希「ポケモンでないかな～♪」
優奈「ここはコラッタとポッポが出るぞ」
～～～♪
あっ野生のポッポが突撃してきぜつした!?
どうする?
1、ゲット
2、看病する
3、放置
優希「モンスターボール!!」
おめでとう!!ポッポを捕まえました‼
優奈「コラッタゲット」
今回はここまで
～～～♪
トキワに着いた優奈達はジムに向かいます次回は、門前払いと傷付いたポケモンと進化を気長にお待ちください

# 第3回門前払いと傷付いたポケモンと進化

新たな仲間を加えた優奈達は最初にして最後の町トキワシティに来ていた
優奈「何々？『ジムリーダー不在、再開未定』だって」
優希「え～!?せっかくジムで闘おうと思ったのに…」
???「ここは最後のジムじゃよ、少し遠いがニビシティが最初のジムじゃよ」
優希「ありがとう、おじいさん」
優奈「ありがとうございます」
おじいさん「儂は昔、このジムのアドバイザーじゃったからの～そういやポケモンセンターでサカキさんとこのポケモン譲渡会をやっているからいきなされ、君らに出会いが有らんことを」
優奈「ありがとうございます、ではまたいつか」
てくてく
此方はポケモンセンター、心ないトレーナーに捨てられたり虐待されたポケモンの譲渡会が開かれていた
???「あまり大きな声は出さないで下さいね～」

???「ポケモン達が怖がるから気をつけて下さい」
優希「あの～すみません、ここで譲渡会をしていると聞いたのですが？」
???「あっていますよ、私は担当のムサシ、あっちのギザったらしいのは同僚のコジロウと仲間のニャースよ」
コジロウ「ギザったらしいは余計だ」
ニャース「ポケモン達の話ニャラ任せるニャ!!」
優希「へ～ニャースって喋れるんだ‼あたし優希、優しい嵐だよ‼よろしくね」
優奈「えれ～いるな～どうも嵐こと優奈ですよろしく」
優希「ニャースさんあの魚は？」
ニャース「あれは、遠いホウエン地方にいるヒンバスというポケモンニャ」
ムサシ「こいつはトレーナーから『醜い、さっさと消えろ、雑魚に用はない』って言われて心が傷付いているのよ」
優希「酷い…決めた‼あたしこの子にします‼」
ムサシ「わかったわ…この子よろしくね」
優奈「なるほど…では、このラルトスにします‼」
コジロウ「こいつを頼んだよ‼」
その夜

優希「ルナ、ララ出て来て!!」
ルナ『参上!!』
ララ『ぼ、僕も!!』
優希「ルナ、ララとヒンバスをテレパシーで通訳してくれない?」
ルナ『任されよ』
優希「ヒンバス、よろしくね」
ヒンバス『こいつも私を棄てるんだ…私は要らないポケモンなのに…』
優希「図鑑で見たけどあなた女の子なんだね!!私はヒンバスのこと好きだよ♪」
ヒンバス『え…私は要らないポケモンなんですよ!?気休めはいりません!!』
優希「違うよ‼貴女は可愛いんだよ‼自分に自信を持って!!」
ヒンバス『私は、私は…』
その時ヒンバスが煌めく
優希「ヒンバス!?」
ヒンバス『この光はまさか…』
おや?ヒンバスの様子が…
???『ほあぁぁぁぁ!!』
おめでとう!!ヒンバスは貴女の優しい心でミロカロスに進化した‼

ルナ『ミロカロスに進化した!?マスター、ミロカロスのコンディションを見てくだされ!!』
図鑑『ミロカロス、全パラメーターブッチ切り♪限界?知らない機能ですね』
優希「すっご～い!!進化おめでとう…ミロカロス」
ミロカロス『ほぉぁぁぁぁぁ!!』
ララ『僕も進化できるかな?』
ルナ『明日から鍛える…覚悟しなさい』
ララ『うん!!』
いやいや!?ひんしになるからな!?
一方、優奈の部屋では
優奈「ほれほれここがええんやろ～」
ポッポ『～～～～♪』
ラルトス『ねぇ、あれは何?』
シキ『マスターのスキンシップでござる』
ラルトス『そう…』
優奈「ラルトスも来なよ～」
ラルトス『じ、冗談じゃないわ!!』

優奈「そう言わずにさ♪」
ラルトス『～～～!?』
シキ『(手間のかかる妹が出来たで御座る…)』
次の日
優奈「ニビシティに行くぞ～」
優希「おお～!!」
数時間後とあるマサラのトレーナーによってトキワのポケモンセンターが破壊されたのは言うまでもない
～～～♪
深い森だな～ん?あれは!?次回は、懐かしき鰐とサカキさんと密猟団を気長に待って下さい

# 第４回懐かしき鰐とサカキと密猟者

前回トキワのポケセンが破壊される
ここはトキワの森昼なのに暗い…パラスいそう
優奈「じめじめしてるから少し歩きにくい」
優希「ルナに乗る？」
ルナ『踏み込みが甘い！』
ララ『まだまだぁ!!』
優奈「辞めとく」
ぐちゅぐちゅ
おや？壱逢読者には見慣れたあのシルエットは…
???「あら？優と優希じゃない？」
優奈「優実!?」
優希「お姉ちゃん何でいるの!?」
優実「隼人のバカの頼まれついでに何処かではスリリングな水着をしている少女と旅してるのよ」

???「そんなの着ないわよ‼」
優奈「あ、ホントだ光るならシテそうだな～」
優希「このリザードンヤバくない？対戦相手殺す気満々だよ⁉」
優実「にしてもカスミちゃんはエロティックよね～」
優奈「こりゃアレも興奮するわな」
???「何を読んでいるのよ⁉」
なみき『電〇ピカチュウ』
???「なによそれ⁉ちょっと読ませて‼」
優奈「はいよ～んじゃ２巻をば」
ペラッペラッ
???「なんじゃこりゃぁぁぁぁ‼」
優奈「平行世界の君だしいいんじゃない？」
???「よくないわよ‼なんで私があんな目に会わないといけないのよ‼」
その時である‼なにやら騒がしい爆発が聞こえてきました
優実「行く？」
優奈「もち‼野次馬～」
てくてく

爆心地では黒スーツのイケメン対グラサンのオッサンが戦っていた‼
黒スーツのイケメン「わかっているのか？君は私には勝てないんだよ‼」
グラサンのオッサン「うるせえ!!いけ!!サイドン奴につのドリ『オシリス!!ハイドロポンプ!!』なんだ!?」
優奈「通りすがりのトレーナーその壱」
優希「その弐」
優実「その参」
???「一応ジムリーダーよ」
黒スーツのイケメン「君はハナダのジムリーダーカスミ君ではないか!?」
カスミ「サカキさんこそなんでいるのよ!?」
サカキ「スピアーのボールが騒がしくてな調べたら密猟者が丁度ピカチュウを捕まえていたのだよ」
密猟者「ピカチュウは金になるからな～お前らのポケモンもまとめて『ルナ、低威力コメットパンチ!!』ぐはっ」
優奈「なげぇ!!一行で纏めやがれ」
優奈以外『ええ～』
そして…

???「ご協力感謝します‼」
サカキ「ジュンサーさんもご苦労様です」
ジュンサー「では、本官はこれで」
優奈「にしてもえれ～捕まえてるな～ピチューにライチュウになんでいるか判らんプラスルにマイナンにデデンネがいるよ」
優実「地方をまたにかけてたんじゃない？」
優希「そういやお姉ちゃん？なんでオーダイル持っているの？」
優実「最高神（バカ隼人）の頼みついでよ」
デデンネがニヤケながら優奈を見ている、どうしますか？
優奈「来い…シキ…高威力水手裏剣」
シキ『南無三‼』
デデンネ『マジか…死んだわ』
優希「ルナ、サイコキネシス‼」
ルナ『したかない…』
デデンネ『神が舞い降りたか…神よ私を手持ちに入れて下され』
優奈「あれ…かなりやべー分類だな」
優希「デデンネ、ゲットだよ‼」

優実「あっそういやサカキさん、ジム戦三人分予約します」
サカキ「わかった、君たちが来るのを楽しみにしてるよ」
優奈「行くぞ～」
優実「では」
優希「待ってよ～!?」
サカキ「まるで嵐だな…」
カスミ「ちょっと!?おいてかないでよ!!」
ラスボスと会い新たな仲間を加えた優奈達、ニビシティはもうすぐだ‼
～～～♪
ニビシティにやって来た優奈達はジム戦をするようです、次回はララの思い、岩のニビジムを気長にお待ち下さい

# 第五回ララの思い、岩のニビジム

前回の軽いあらすじ～
密猟者は全ての地方で悪事をしていた
優奈「本編行くぞ～」
やって来ましたニビシティ、博物館があり近くには最初のジム、ニビジムがある
優実「じゃ、少し観光してくるわ」
優奈「わかった」
優希「ジム戦緊張するよ～」
ルナ『私は出ませんよ♪』↑レベル？知りませんね
ララ『師匠の出る幕はありません!!』↑レベル約１９
ミカ『私も出ませんよ♪』↑レベル？知りませんね
デデンネ『タイプ不利です』↑レベルが高かろうが瞬殺されるだろう
すたすた
此方はニビジム入口
???「よっす!!未来のチャンピオン!!ここニビジムは岩と地面とノーマルのジムだ‼水

や草、格闘、氷と弱点があるが対策はバッチリだから気をつけて戦えよ!!長々と話してすまんな、餞別においしい水をあげよう!!では」
優奈「ん～手持ちがヤバイな」
シキ『拙者は戦はないからな』↑レベル？知りませんね
ポッポ『タイプ不利です』↑レベル約１７
ラルトス『…ゴリ押しワンちゃんね』↑レベル約２３
優奈「ラルトス？なんで進化しないんだ？」
ラルトス『べ、別に進化はできるけど～抱っこしてもらいたいからって何言わせるのよ!?』
一方優希はと言えば、試合をしていたしかも終盤
優希「ララ!!ひっさつまえばで止めだよ‼」
ジャッジ「サンド戦闘不能!!コラッタの勝ち!!よって勝者、優希‼」
優希「ララ!!勝ったよ‼」
ララ『殺りました‼』
デデンネ『ぐぬぬ』
ミカ『よく殺りました‼』
ルナ『危ないところもありましたが良いでしょう』

ミカ『ハラハラしてたくせに～』
ルナ『ふん』
???「ようこそ、俺はタケシ‼ジムリーダーだ」
優希「よろしくお願いいたします」
ジャッジ「これより、ジムリーダータケシ対チャレンジャー優希の試合を始めます‼使用ポケモンは二体、チャレンジャーは交換ができます‼では、始め!!」
タケシ「いけ!!イシツブテ!!」
優希「頼んだよ‼デデンネ!!」
イシツブテ「ラッシャイ!!」
デデンネ『神よ‼勝利を捧げましょう』
タケシ「(見た感じ電気タイプか…なら地震だな…)イシツブテ!!地震」
優希「かかった‼デデンネ、地震で盛り上がった地面に登って!!」
デデンネ『かしこまりました‼』
優奈「お～」
タケシ「そんな手があるとは知らなかったな…イシツブテ、砂玉を作ってデデンネに投げろ!!」
優希「かわして!?」

デデンネ『うわ!?ま、前が見えない』
タケシ「体当たりだ‼」
デデンネ『うわァァァ!?』
優希「デデンネ!!」
デデンネ『まだだ…神が見ているのだ…負けるわけにはいかないんだよ‼』
イシツブテ「ラッシャイ!!」
優希「(かなりのレベルのはず…デデンネに黒い砂が付いてる?これだ‼)デデンネ、イシツブテの周りを回転して!!」
観客席の優奈「お〜」
優奈の膝に座っているラルトス『さっきからそればっかりね』
タケシ「何をしているんだ?」
優希「今だ!!デデンネ、最大出力でほうでん!!」
デデンネ『うおぉぉぉ!!』
タケシ「地面タイプに電気技はきかな『そいつはどうかな?』何!?」
なんと!?イシツブテに黒い砂のような物が付きだした!?
優希「砂鉄ナメんなよ‼」
優奈「一応言っておくがご都合主義だからな」

ラルトス『自爆技じゃない…』
タケシ「イシツブテ!?」
ジャッジ「イシツブテ行動不能!!チャレンジャーの勝ち!!」
タケシ「よく、砂鉄に気付いたな」
優希「デデンネに砂玉が当たった時にね」
デデンネ『神よ、あなたのために勝ちましたぞ!!』
タケシ「次のと言いたいところだがイシツブテの砂鉄が取れるまで待ってくれないか?」
優希「大丈夫です‼デデンネ、磁石モード」
デデンネ「で〜ねね」
タケシ「すごいな」
優希「これでよし♪ごめんねイシツブテ」
イシツブテ「ラッシャイ♪」
砂鉄デデンネ『少しスピードが落ちました』
観客のミカ『スゴいじゃないあのネズミ』
ルナ『甘いですねあそこの場合背中受け流しですね
優奈「素直じゃないね〜」

タケシ「いけ!!イワーク!!」
イワーク『強いられてるだ!!!』
三角兄妹『ネタ枠ですありがとうございました』
優希「デデンネ?行ける?」
デデンネ『逝けますぜ‼』
ジャッジ「試合開始!!」
タケシ「先手必勝!!イワーク、デデンネに巻き付け!!」
優希「デデンネ、砂鉄パージ!!」
デデンネ『ｃａｓｔｏｆｆ』
優奈「すげー流暢に言いやがった!?」
タケシ「イワーク、噛みつけ!!」
優希「デデンネ!?」
デデンネ『ぬ、抜け出せぬ…』
タケシ「ラスターカノン発射!!」
デデンネ『うわァァァ!?』
ジャッジ「デデンネ、戦闘不能!!イワークの勝ち!!」
優希「お疲れ様…ゆっくり休んでね…ララ!!デデンネの仇を討つよ‼」

ララ『で、デカい』
タケシ「イワーク、いわおと『電光石火しながらしっぽをふる!!』何!?」
優奈「おーあっという間に防御が紙屑に」
タケシ「だがまだまだだ‼イワーク、岩石封じ!!」
優希「交わしながら鳴き声‼」
優奈「攻撃が輪ゴムになった」
タケシ「まきつ『すなかけ!!』何!?」
優奈「パラがズタボロだな～」
ラルトス『いつまで抱き締めてるのよ!?』
優奈「ん？試合が終わるまでかな～♪」
ラルトス『いやァァァ!?サナお姉ちゃんみたいなことされるぅぅぅ!?』
優奈「しないからな」
では、戻ろう
優希「ララ!!止めの『ロックオンからの岩石封じ』うそ!?」
ララ『うわァァァ!?』
優希「ララ!?」
タケシ「イワーク、止めのラスターカノンチャージ開始!!」

優希「ララ!?避けて!!」
ララ『前が見えないや…ごめんね…』
???「ララ!!、避けてよララ!!」
ララ『マスターが泣いてる…だれだよ…泣かした奴…僕か…『いいのですか?このままで』し、師匠』
ルナ『マスターはあなたが立ち上がるのを信じてますよ』
ララ『もう前が見えないよ…』
ルナ『諦めないで!!奴は私より格下です‼なぜ修行の成果を見せない?私の顔に泥をかけるきか!?私は軟弱鼠を鍛えた覚えはない!!立ち上がれ!!今の貴方なら…いやあなた達なら糸目野郎の石蛇ごとき倒せるって私は信じています』
ララ『そうだ…僕は負けない!!マスターと勝つんだアアアア!!』
おや?コラッタの様子が…おめでとう!!コラッタは師匠と優希の思いに反応してラッタに進化した‼
優希「ララ!!」
ララ『ごめんねマスター!!さぁ、反撃開始だ‼』
タケシ「進化してもふらふらじゃないか、イワーク、ラスターカノン発射!!」
優希「ミカ…技を借りるよ‼ララ!!冷凍ビーム!!」

優奈「互角だね～うりうり♪」
ラルトス『は～な～せ～』
ルナ『勝ったな…ポケモンフーズ食べてきます』
ミカ『いつの間に習得したのかしら?』
ララ『うおぉぉぉ!!』
タケシ「イワーク!?」
なんと、イワークは氷ってしまった‼
優希「ララ…鳴き声…」
ララ「ぢゅ!!」
ジャッジ「イワーク、戦闘不能!!ラッタの勝ち!!勝者優希‼」
タケシ「土壇場の進化には驚いたな～はい、ジム戦の証グレーバッヂだ」
優希はグレーバッヂを手に入れた‼
優希「ありがとうございました‼」
優奈「さて、次は俺『時は吹き飛ぶ‼』おい、てん」
タケシ「グレーバッヂだ」
優奈はグレーバッヂを手に入れた
優希「次は何処に行こうかな」

タケシ「近場にハナダジムがあるぞ」
優奈「次はハナダだな!!」
優希「うん!!」
優奈「優実と合流して行くぞ」
バッヂをゲットした優奈達…次はハナダシティ『おーい!!』失礼
優希「タケシさん!?どうしたんですか?」
タケシ「俺も連れていってくれ!!」
優実「ピッ」
楽屋裏
優奈「おいおいどするよ?」
優実「カスミがいるしもう原作ブレイクで良くない?」
優希「いいのかな〜?」
優奈「よし、あれをしよう」
戻って
優奈「タケシ、夢は何だ?」
タケシ「俺の夢はポケモンブリーダーになることだ‼」
優奈「よろしくだ」

優希「よろしく!!」
優実「はぁ…よろしく」
やっと出てきたカスミ「よろしく」
新たな仲間を加えて次はハナダシティだ
〜〜〜♪
ハナダシティを目指す俺たちの前に山が立ちはだかる‼次回は、おつきみやまの戦い、ピッピ達の楽園を気長にお待ち下さい

# 第６話お月見山の戦い、ピッピ達の楽園

前回、ニビジムを制した優奈達はブリーダーを目指す元ニビジムジムリーダータケシを加えハナダシティを目指していたのだが…

優希「お兄ちゃんが流されるなんて…」

優実「そう簡単にくたばる奴かしら？」

優希「うん!!だってお兄ちゃんは不死身だもんきっと生きてるよ」

空に薄くボヤけている優奈「死んでないからな」

では、優奈はというと…

優奈「いや～危うい所を助けてもらってしまい感謝します」

???「山では助け合いです‼見たところトレーナーですな!!すまないが儂の孫とポケモンバトルしてくれませんか？」

優奈「構いませんよ‼」

対戦カット

孫「勝ったよ‼これでニビジムに挑戦できる‼」

優奈「ふぃ～」

???「トレーナーさんありがとうございます、孫も自信がついたこれもトレーナーさんのおかげじゃ」
優奈「さて、そろそろ私もいきますか、仲間が心配していますし」
???「トレーナーさん、気をつけて下され、最近密猟者がいるらしいぞ」
優奈「情報提供感謝します」
一方優希達は…
優希「囲まれたね？」
優実「そのようね？」
野生のズバットやなぜカントーにいるのかわからないヤミラミ、ドーミラー、マクノシタに囲まれていた
タケシ「多勢に無勢とはまさにこの事か」
カスミ「どうするのよ!?」
その時である‼
???「サイコキネスとだましうち!!」
優希「今のはお兄さん!?」
優奈「口調かわってるぞ～ついでにまぁ雁首揃えて来たもんだ‼まずは一発行くぜ‼
シキはいあいぎり、キルリアはねんりきそしてピジョンはつばさでうつ!!」

ズドヤマ『!?』
優奈「ついでにロープ♪捕獲完了、さて暴れた理由を聞こう」
ズバット『我々は人間に屈しない!!』
優希「フラグだね」
タケシ「フラグ？」
優奈「そうか、では今から一匹ずつ痛め付けよう♪何匹目で吐くかな？」
優実「本当は『閲覧規制』だけどね」
優奈「先ずそこのデッぷりズバットだな」
ズバット『やめろォォ!?ソイツの腹には俺の子がいるんだ‼』
優奈「知らんな正直に言わなかったことを恨むんだな」
ズバット『ヤメロォォォ!!』
優奈「まずは温かい寝床を用意します」
優奈以外『ずこぉ!?』
優希「さっきのやつはなんなの!?」
優奈「え？暇潰し～大体原因密猟団だし～」
タケシ「密猟団!?まさか…優奈さん!!ズバットにピッピ達の事を聞いてくれませんか？」

優奈「だそうだ」
ズバット『ピッピ達は…月の舞の練習のためにハナダの洞窟にいるよ』
優奈「ハナダの洞窟ね～奴がいるし大丈夫か♪』
タケシ「わかりました…」
ズバット『本当にいいのか？』
ズバット『はい』
ズバット『旦那、こいつを糸目の奴に渡してくれやすか？』
優奈「ん？構わないがタケシ、ズバットが卵をくれるそうだ」
タケシ「卵!?」
優奈「ん～優しさか？」
タケシはズバットの夫婦から卵を受け取った‼
優希「いいな～」
優実「ん？飴だわ」
優実はふしぎなあめを拾った‼
おや？あの青い髪は？
???「お～い!!」
優希「コジロウさん!!」

コジロウ「やっと追い付いた～サカキさんが優希ちゃん達三人に渡してくれって朝いきなり言うから急いでもって来たよ」
優奈「なんじゃらほい？」
コジロウ「謎のタマゴ!!なんでもマサラにいる博士の従兄弟がいる地方で見つかったらしいんだけど…」
優奈「大体わかった…」
コジロウ「三人に頼むのも何かだけど…タマゴをもらってくれないか？」
優奈「構わないぞ」
優希「大丈夫!!」
優実「何とかなるっしょ」
コジロウ「ありがとう!!」
優希達はコジロウからタマゴを貰った‼
コジロウ「頼んだよ‼後、タマゴが孵ったら一回連絡してくれないか？サカキさんも心配しているんだよ」
サカキ『少し開ける…』
優奈「ありゃクールヒートだな」
タマゴを貰った優奈達いったいなんのタマゴなんだか？

とあるトレーナーがピッピの踊りを見るのは数日後の話である

～～～♪ハナダに着いた優奈達、カスミの様子が…次回、世界のおてんば人魚…水のフィールドミカ対スターミーを気長にのんびりまったりお待ち下さい

# 第七話世界のおてんば人魚…水のフィールドオシリス対スターミー

前回のあらすじ
優奈が流される
おつきみやまを越えた優奈達は二つ目のジムがあるハナダシティに来ていた
優奈「えらく歩いたな～」
優実「あら?また飴が落ちてる」
優希「よく落ちてるよね～」
タケシ「三袋分位拾ったからな」
ルナ『私やミカ、シキは大丈夫ですが他の子達が見つめて結構辛いです』
ミカ『落ちてるものは食べちゃダメだからね』
シキ『そうでござる、マスターの世界では、ガーディ位の子が食べて天に召されたとか』
デキラピ『落ちてるものは食べません!!』
優奈「だそうだ」

何かのタマゴ『プルプル』
優希「タマゴが震えたような？」
優奈「メタいが次回はタマゴの話だな」
優実「さて、ジム横にあるポケセンに来たけどどうするの？」
タケシ「俺は食材を買いに行くよ」
カスミ「私はちょっと用事が…」
優希「私はジム戦!!」
優奈「俺は金玉橋のトレーナーをシバくついでにジム戦するか」
優実「私はジュンサーさんに詐欺紛いなことしてるおつきみやまのポケセンにいたおじさんとそこの自転車屋のおじさんでもたれ込みますか」
タケシ「じゃあ、集合場所は今いるポケセンでいいか？」
タケシ以外『大丈夫!!』
ではｄｉｅジェスト
優奈「しゃらくさいから纏めてこい!!」
トレーナー『喰らいやがれ!!』
優奈「シキ、みず手裏剣」
シキ『南無三!!』

別のとこでは
タケシ「特売は楽だなっとん?」
おや…
???「…」
おめでとう!!タマゴからズバットが生まれた‼」
ズバット「〜〜♪」
タケシ「俺はタケシだよろしくなズバット」
ズバット「〜〜♪」
そのまた別のところでは詐欺まがいな事をしていたおじさんやぼったくりしていた店主が捕まっていた
優実「特別なコイキングは確かタマムシ大学にいるわよ」
???『特別な瑞雲を与えよう』
優実「世界がちがうわよ」
???『すまない』
またまた別のところでは
優奈「ふい〜、さてと逝きますか?」
??『クア!!』

そこにはあの五人のトレーナーとある意味有名な奴が倒れていました
優奈「弱いから逃がすなら判るけど棄てるわね～？さて、ヒトカゲ？君はどうしたい？」
ヒトカゲ『私はまだ信じられません…』
優奈「んじゃポケセンに預けておくか、改心すればよしだなヒトカゲもそれでいいか？」
ヒトカゲ『はい』
優奈「一応メモ書いてっとんじゃバイニ～」
ヒトカゲの元トレーナーの側には『悔い改めたらポケセンに来い』と書かれていました
ではラストの優希はというと、ポケセンにいた
優希「はぁ…」
優実「どうしたの？ため息なんか吐いて」
優希「バッチは貰えたんだけどね」
優実「ならいいじゃない？」
優希「ショーの見学者に配ってたんだよ!?バトルなんてしてないし…」
優実「へぇ～もしもし優？」

優奈『んだ?』
優実「明日ジム戦するわよ‼」
優奈『わりぃ、ハナダの洞窟で奴といるから無理に近い』
優実「そう」
一体何ツー何だか?では次の日
???「よっす‼未来のチャンピオン、ここハナダジムは水タイプのジムだ‼草、電気の対策もバッチリだから気を『さっさとジム戦させろ、ショーに付き合うきはない』そ、そうですか」
オシリス『レベル?知らんな』
???「ようこそ、私ジムリーダーの『さっさと殺ろう』せっかちは嫌われるよ?」
ジャッジ「これよりジムリーダー対チャレンジャーの試合を始めます!!使用ポケモンは一体では始め」
ジムリーダー「行け!!スターミー」
優実「オーダイル…スターミーランプを噛み砕け…」
オーダイル『ひゃっほォォォ!!久しぶりの出番だぜ‼』
ガキン!!
ジャッジ「スターミー再起不能!?オーダイルの勝ちよって勝者チャレンジャー!!」

ジムリーダー「強いねはい、ブルー『要らないわ』ほう?」
優実「したっぱに用は無いの、さっさとモノホン出しな」
ジムリーダー「その根拠は?」
優実「ジムリーダーが海パン野郎な訳ないじゃん」
優奈「イッシュにおかゆになされ」
キルリア『正確にはお帰りなされよ』
海パン野郎「バレては仕方ないか~僕はジムリーダー代理さ、リーダーも帰って来た事だしお役後免だね」
???「お疲れ様、さあ!!ジムリーダーのカスミが相手になるわ!!」
優実「カスミがジムリーダーなの!?」
な、なんとついさっきまで一緒にいたカスミがジムリーダーだった‼
優奈「勝てるかな~?」
優希「がんがえ~」
優実「さっそく…オシリススタートアップ!!」
オシリス『ふうん』
カスミ「行くのよ‼マイステディイ」
???「へアッ!!」

優奈「ウルトラマンだ‼」
優希「え〜と、あった‼ヒトデマンだね」
まぁ普通にバッチは手に入れて終わりだからな〜
〜〜〜♪
かなり手抜きだな…次回は世界は君を待っているを気長にお待ちください

# 第八回世界は君を待っている、祝え!!新たな命の誕生を!!

ハナダジムにいるジムリーダー代理の海パン野郎の海パンを剥ぎ取りタマ吊しにした前回優奈達はポケモンマニアで通信システムを作ったマサキの家を目指していた
優奈「タマ吊し、逆さ吊りの縄を足じゃなくタマでやる奴だ」
タケシ「想像してしまった…」
カスミ「女の子でよかった」
パリッ
優希「パリッ?」
タマゴの様子が…
優奈「生まれるのか?」
優美「そうみたいね」
〜〜〜♪
おめでとう!!優美のタマゴからはサンド、優希のタマゴからはコラッタ、優奈のタマゴからはロコンが生まれた‼

タケシ「おめでとう」
図鑑『ｅｒｒｏｒｅｒｒｏｒｅｒｒｏｒｅｒｒｏｒアップデートしてください!!』
優奈「ってことはアイツだな」
図鑑『かめん!!メカニック鈴木!!』
???「ん？なんだ？」
???「ゆ、優にぃ!?」
ゆきちゃんとしっぽりしてたらしい
優奈「はぁ…暫くお待ちください」
５分後～
鈴木「下らない理由なら怒るぞ」
ゆき「優にぃや鈴木さん、ＺＥＲＯ以外の人に見られた…」
優奈「すまんがこの図鑑アップデートしてくんない？」
鈴木「任せろ、たっく、久しぶりの休暇が台無しだな」
カチャカチャ
鈴木「ほれ、全地方次いでに各地の伝承やガイドブックと電話機能をつけといたぞ」
この間３０秒である
優奈「ありがとよ」

鈴木「ゆきちゃん？」
コラッタ達と戯れているゆき「はい!!」
優奈「お見せできない顔だな」
鈴木「さっきまでヤってたからな」
タケシ「優奈さん、この二人は？」
鈴木「すまんな私は鈴木兼続自称てんすぁいメカニック鈴木で戯れているのはゆきちゃん私の妻だ」
優奈「いつの間に婚姻届け出したんだ？」
鈴木「向こうにいるときに元帥さんを脅ゲフンゲフン脅して受理させた‼」
カスミ「言い直せてないし、優奈さんこの人ロリコン？」
ゆき「向こうじゃバインバインです‼」
優奈「まぁ、気にするな」
タケカス『気にします!!」
優奈「じゃあね」
鈴木「たまには鎮守府に来い、女将や不知火達が心配していたぞ」
優奈「近いうちに行くよ」
ゆき「バイバイ!!」

数秒後～
優奈「さてと図鑑で見ましょう」
図鑑『この三匹はアローラ地方に生息しているコラッタ、ロコン、サンドです、このカントー地方より遠いのでそれ以上は不明申し訳ない』
優奈「へ～」
優希「名前何にしようかな～」
コラッタ『???お母さんは?』
ララ『ようこそ』
ミカ『かわいらしい子ですね』
ルナメタル『いや～な予感が…』
コラッタ『びぇぇぇん!!!』
ロコン『びぇぇぇん!!!』
サンド『ぐすん』
キルリア『はぁ…なかないのマスター!!』
優奈「へいへい確か…あった!!モーモーミルク!!」
シキ『これもまた修行…』
ピジョン『旋回中』

オシリス『おもちゃ作り中』
賑やか（物理）になりましたね
〜〜〜♪
サカキに生まれた事を報告するか、次回はポケモンマニアとアローラロコンを予定なんだけど…気長にお待ちください

# 第９話ポケモンマニアとアローラロコン

前々回のわかりやすいあらすじ…ハナダジムはショーのオマケにバッチを配っていたのを見た優希は泣き優奈と優実がキレたようです

優奈「え～これよりハナダジムジムリーダー代理海パン野郎のタマバンジーを開始します、野郎共タマヒュン注意だ」

海パン野郎「私はジムリーダー代理をちゃんと『ＧＵＩＬＴＹ　♪』アッー!?タマと皮が千切れる!?」

優奈「んじゃ本編いこか」

ここはゴールデンボールブリッジ訳したらダメだぞ

優奈「てな訳よサカキさん」

サカキ『そうか、そのヒトカゲがまだポケモンセンターにいたら保護しよう』

優奈「そうしてくれ後は卵産まれたからな～」

サカキ『そうか…卵の子達は元気か？』

優奈「元気も元気、今も頭の上にいるしルナに乗ってるしシキを見てる目がキラキラしてるよ」

サカキ『わかった、そういえば今どこにいるんだ?』
優奈「ハナダの金玉橋」
サカキ『それなら先の岬にマサキというポケモンマニアがいるんだ彼は預りシステムの開発者で何か面白い話が聞けるかもしれないよ』
優奈「預りシステムね～わかった暇だし行くわ」
サカキ『じゃあ君たちの旅に幸あれ』
優奈「おうよ」
～～～♪
優奈「ってな訳で岬にいるポケモンマニアに自慢しに行くぞ～」
優奈以外『お～』
てくてく
???「きゃ!?今見てたでしょ!?」
優奈「もひもひポリスメン?痴漢冤罪吹っ掛けてきた痴女いんだが助けて」
ポリスメン「通報を聞き参上!!」
優奈「距離約一キロ位からチミィ?見てたの?とかほざいてました!!」
ポリスメン「詳しい話は私の家で聞こうグフフなあに逆らったら公務執行妨害でしょっぴくだけさ」

その後の調べで痴女こと ミニスカートは痴漢冤罪の余罪も判明しこってり絞られたようです、本編とは関係ないがな
優奈「あばよ～」
てくてくすたすた
此方が件の岬
優希「何かごちゃごちゃしてるね」
タケシ「灯台か？」
優奈「それは本人に聞こうかね～おーい、マサキいるか～」
ガチャ
優奈☒S『!?』
そこで優奈達が見たものとは!?一旦ＣＭです
優奈「アイキャッチ!!」
優希「目玉が翔んできた!?」
???「ようこそ『新種のポケモン!?』ちゃうちゃう!!ワイはマサキ！人読んでポケモンマニアのマサキや!!今はこんな姿やけど人間や!!」
優奈「逝け!!ミュウツーボール!!」
ぷにぷにぷにポーン!!おめでとう!!優奈はマサキ?を捕獲した!!

優奈「逝け!!マサキ?」
マサキ?「なにす『ロコン、こなゆき』カチンコチン」
優奈「えらいぞ～」
ロコン「こ～ん♪」
ハンマー優希「えい!!」
マサキ?「殺す気か!?」
優奈「んにゃ冷凍保存して未来に託そうとしてただけ」
マサキ?「託そうとするな!?この中に入るからキーボードのボタン押してなほなな～」
優奈「ボタンわからんし秘技タピオカパーーン!!!」
優希「壊してる!?」
かかカカかチーん
優奈「完了だ!!見ろ!!分離出来たではないか!!」
そこにはニドリーノと冴えない陰キャ見たいな奴がいた
陰キャ「冴えないは余計や!!失礼、ワイはマサキ君ら預りシステムつこうてる?あれ開発したんはワテなんよ」
優奈「四匹だからまだだな」

優希「五ひきだからまだです」
優実「２体です」
マサキ「は～～～～～!!つっかえな!!まあええ、沢山捕まえたら自動的に預りシステムに転送されるかい安心して捕まえてな特にイーブイをな～」
優奈「イーブイね～かなりレアだな見つけたら見せびらかしに来てやるよ」
マサキ「ホンマに!?前払いでクチバに停泊してる船のチケットあげちゃう!!ワテは人がぎょうさんいるの苦手ややかいあげる!!」
次の目的地はクチバになりそうです
～～～♪
クチバを目指す優奈達、優奈「へ?カントーは田舎だって?しゃあない義理は無いが潰そう優希、ルナ返してくれ…お前ら今から邪道するが引くなよ」次回、はるばる来たボールを気長にお待ちください

# 第10話はるばる来たボール

前回、マサキからチケットをもらった優奈達はクチバを目指していたんだけど…ぶちギレ優奈がルナとシキのタッグでとある地方から来ていたイキリ野郎のポケモンを一方的に痛め付けていた

優奈「ルナ、サイコキネシスして引き寄せてからコメットパンチ…シキはルナに弾き返せ、ルナとシキその動作を繰り返しだ…どうした?こんなド田舎に都会の素晴らしさを説きに来たんだろ?貴様のポケモンは可哀想に泣いてるぞ?聞こえないのか?『マズダーァァぐべあ!?』って」

優実「ありゃ優の奴珍しくキレてるね～」

タケシ「カットされててよかった…」

優奈「ほれほれ早くしないと君のポケモンがポケモンセンターではなく墓穴送りにされるぞ～ルナ、半分だシキはそうだな～瀕死にならない程度に刺せ」

優希「何かお兄ちゃん恐い」

優実「優はイッシュ地方にいる一部のトレーナー嫌いだからね～」

タケシ「そうなんですか?」

優実「そ、バトルや育成が全て教科書の押し付けだったらしくてね～後、トレーナーの民度も全地方1悪いしサカキさんですら行きたくないらしいわよ」
カスミ「あのサカキさんですら行きたくないとかよっぽどだわ…」
優奈「どうしたどうした!!余裕じゃないのか?さっさとん?瀕死か…つまらんさっさと金だして失せろ!!ついでに近々イッシュに行くから見つけたら墓穴送りにしてやろう」
トレーナー「ヽ（ヽ。ロ。）ヒイィィィ!」
優奈「不完全燃焼だ…シキ、ルナと組み手しといてくれ俺はちょっと離れる」
優実「ポケモンハンター終了のお知らせ」
その後一時期だがカントーでポケモンハンターが出没しなくなったらしいが他の地方で大量発生したが関係ないし絡ませる気は無い!!
では本編に戻ろう
赤い液体が付着してる優奈「ふぃ～」
優実「死なない程度よね?」
優奈「抵抗したから峰打ちしてジュンサーさんに渡してきた」
優希「じゃあその赤い液体は…」
優奈「そこに生えてたマトマの実をやけ食いした後だ意外と辛いからな」

優希「よかった〜てっきりポケモンハンターの血『バレたか〜』嘘だよね?」
優奈「勿論さー」
優実「棒読みね」
優奈「古始今流超技の錆になっただけだ」
優希「なら安心だね!!って死んでるじゃん!?」
優実「最覇砕斬は基本相手は死ぬ剣技ですよねこ悪い子は絶対に真似しないでというか習得しないで下さい」
優希「普通真似しないからね!?」
優??『特殊な修行をしたら誰でも習得できる剣術指南書出そうかな?』
んなことがあったがクチバシティは目の前だ!!
〜〜〜♪
クチバシティにやって来た俺たちが見たのは泣きながらボロボロのポケモンに寄り添う子どもだった…次回は最凶復活!?ルナメタル対ライチュウを予定してるんだ…変わったらごめんね

# 第11話最凶復活!?ルナメタル対ライチュウ

前回のわかりやすいしためにならないあらすじ

作者はアニポケは好きですだけどＢＷとＳＭは嫌いですそれはなぜか?単純明快ＢＷはただ単にサトシを初心者扱いするシーンあれは明らかにふざけてる、そしてＳＭはサトシ弱体化とアローラ町内会リーグである私はサトシがアローラのチャンピオンなぞ認めない!!特にハウとの闘いだ、何が寝ているだけだ、舐めとんのか!?サトシ、てめえカントーリーグで同じ事をしとるよな?ざけんなよ後、エキシビションのカプてめえは黙って座ってろ何が神だから仕方ないだ!!アルセウスに土下座しやがれ!!では本編に行こうえ?この作品のサトシはって?ニビで詰んでんじゃね?ただ今のサトシ君の手持ち少しなついたピカチュウ、バタフリー、ピジョンです

こほん、ようやく着いた港町ここはクチバシティです

優奈「うへ～コンテナ街あんぜありゃ一つくらいガールスカウトとミニスカート、大人のお姉さん、祈祷師、エリートの『閲覧規制』撮影してんじゃね?」

※この作品は自称健全です

優希「そりゃないよ」

タケシ「どうしますか？」
優希「もちろんジム『しっかりしてピジョン!?』え!?」
???「もうすぐポケモンセンターだからね!?」
優奈「とりあえずまずはポケセンいこかこのままじゃあ宿無しジュンサーお世話ルートだ」
カスミ「そうね」
すたすた
ポケモンセンターなんだけど…
優希「え～二部屋しかないの!?」
優実「ええ、何でも最近ジムリーダーのマチスさんがバカ見たいに強くて毎日担ぎ込まれているチャレンジャーで一杯らしい」
優奈「二部屋はどの種類だ」
優実「ご都合によりダブルとシングルよ」
優奈「ＯＫ、それさえわかりゃ十分だんじゃ明日まで解散だ」
優希「お兄ちゃん、部屋割りどうするの？」
優奈「ダブルにカスミと優希、優実でシングルがタケシと俺だ」
優実「あら？私は優となら構わないわよ？」

優奈「アホ、まあ楽しみにしとくよ」
では暫くは優奈君ｓｉｄｅをお楽しみ下さいえ?展開が読めるってならここまでだな少し早いが次回予告をしよう
～～～♪
プカプカお舟に氷山!?次回はサントアンヌ号よ永久に…○○○に何か落ち度でも?を予定してるんだよな～まあ気長にお待ち下さい

夜此方はクチバジムの横にある細い木
優奈「最覇砕斬!!ふい～たまにいいよな」
アドバイザー「よう、未来のチャンピオン!!このクチバジムは『ルナ、サイキネで破壊しろ!!』話を聞こうな!!」
優奈「大体分かるから無視たい」
???「ＨＥＹ、ボーイ!!ミーがジムリーダーのマチス!!元軍人デース!!てめえよくも設備壊してくれたな!!」
優奈「わりぃが手持ち一体のタイマンバトルしてくれないか?」
マチス「ＯＫ、だがてめえは許さん」
優奈「ルナ久しぶりに暴れるぞ!!」

ルナ『骨のある奴かしらね？』
マチス「知らないポケモンだなだが負けるわけにはいかないデース!!行けライチュウ!!」
ライチュウ「ラーイ」
アドバイザー「始め!!」
マチス「ライチュウメガトン『ルナサイキネ固定からの彗星拳して地面に叩きつけろ』な、何!?」
ルナ『雑魚ね…強くなって出直してきなさいまあ、それでも私には勝てないけどね♪』
アドバイザー「ライチュウ危篤!?速くポケモンセンターに『只今全ポケモンセンターは使用できる状態ではありませんよ～原因？何処かのメリケンがやり過ぎたんだよ』そ、そんな…マチスさん!?」
マチス「ボーイ…無礼を承知したうえで頼みマース…ライチュウを助けて下さい!!」
優奈「ルナ後、ドンくらいだ？」
ルナ『』（・～、・）『』
マチス「このライチュウはミーが初めてゲットしたポケモンなんだ!!頼む助けて下さい!!」
優奈「夜分にすまんなえ？ポケモンしてたから大丈夫だ？なら話が早い今からポケセ

ンの回復装置できる?よし任せた」
マチス「ボーイ…」
優奈「感謝するのは早い、俺はまだ回復してやるとは言ってないからな」
マチス「そ、そんな!?」
優奈「まずはオーバーキルした奴らに謝れそして対戦者にあったレベルでしないと協会にジムリーダーの資格剥奪されるかもな」
マチス「剥奪!?わかりました、ミーが間違ってたよこれからは全うなジム経営をします!!」
優奈「なら付いてこい!!」
その後マチスは対戦者や町の人達に誤り全うなジム経営をし後にカントー1『負けたりしたが勝ちたいし勝ってもまた闘いたいジム』と呼ばれるのは未来の話因みに本編後です

# 第12話サントアンヌ号よ永久に…〇〇〇に何か落ち度でも?

前回、マチスを撃破した優奈達は船の上にいた
優奈「サントアンヌ号ね～」
タケシ「まさか今日がクチバに寄る日とは…」
優希「マサキさんに感謝だね!!」
カスミ「な～んか嫌な予感が…」
船酔いの優実「おえ～」
優奈「まさか優実は船酔いとはな」
優希「お兄ちゃん?」
顔面蒼白の優奈「ん?」
タケシ「優奈さん!?」
カスミ「呆れたまさかやせ我慢してたの?」
優奈「これが船酔いか…」
優実「いらっしゃい」

優奈「世話になる」
優希「お姉ちゃんお願いね」
優実「胃液に聞いて」
ナニか『ヒャッハー!!』
ダメだこりゃこんな時に悪者来たら終わりだな…
優希「天さんそれフラグだよ」
優奈「天の勘はゆきの劣化版だしなウップ」
あの子と私では月とすっぽんですよ
優希「普通自称妹分に『お前に惚れてるとかちゃんちゃらアハハだ!!もし惚れてたら笑いながら車に突撃するよ!!』って言って数ヶ月後には弾かれてるし」
あれは向こうが悪い私はきちんと横断歩道を歩いていたし鞄にあたる程度と予想したら打撲はないやろ
優奈「最終的には妹分には惚れてたんだろ?」
まあ気にはかける程度だな、これ見られてたら百パー説教コース行きだがな
優希「本当に?」
オカンと釈迦と阿修羅に誓って!!
優希「なら大丈夫かな?」

大丈夫かな～?
優希「あれ?デデンネは?」
デデンネ「デネネ～」
船酔いしていた
ポケモンも船酔いするの～?教えて!!オーキドの爺!!
オーキド博士『この世界には１５１匹のポケモンがいる!!儂はそのほとんどを発見した!!』
アカン完全に痴呆や
一方船首では
副長「氷山だと!?」
航海士「レーダーに反応ありませんでしたよ!?」
副長「ルートを反らせれるか?」
航海士「間に合い『最破砕斬!!』氷山が粉々に!?」
???「少しは恩返しが出来ました…」
優奈「なんだ!?」
タケシ「凄い揺れだったな」
優希「お兄ちゃんあれ!!」

優奈「信号弾だ何々?『不知火におまかせ♪』誰が喚んだんだ?」
???『フン!!』
???『素直じゃないね～キルリアちゃん』
キルリア『何よ?ピジョン』
ピジョン『さあな～』
???『マスターには黙っておくか…』
まもなくクチバ港に戻りますお忘れものは三年後ではないと戻ってこないのでお気をつけください
優実「いやいや!?普通に飛行タイプのポケモンか着払いで送りなさいよ!!」
カスミ「そういやあんた達大丈夫?」
優奈「酔い止めのんだらケロリだ!!」
優実「同じく」
優希「次はどこにいくの?」
タケシ「タマムシシティにジムがあるぞ」
優奈「目的地決まったし行くぞ!!」
次はタマムシシティのようです
～～～♪

タマムシシティを目指す一行はヤマブキにいた次回はあの門番サボってるよね？格闘道場キルリア＆ピジョン対サワムラー＆エビワラーを予定しておりますので気長にお待ちください

# 第１３話あの門番サボってるよね?格闘道場キルリア＆ピジョン対サワムラー＆エビワラー

前回沈没フラグの中何もしなかった優奈一行はヤマブキシティ前ゲートにいた
優奈「通りたいんだけど?」
門番「ダメです通りたければ飲み物寄越せ」
???「もしもし?ジュンサーさん?クチバ前のゲートで恐喝されてます至急来て下さい!!え?ヤマブキシティから出られないわかりました突破するけど捕まえないでくださいね～」
優奈「優実どうだった?」
優実「もち!!突破許可降りたわ」
優奈「んじゃ行きますか!!古始今流中技…燕奈落!!」
なんということをしでかしたのでしょう!!全てのゲートが破壊され吹き流しになりました
優奈「あ～ばよ!!」
これにより門番がクビになったのは言うまでもない…

では戻りここはヤマブキのポケセン
タケシ「これからどうします?」
優奈「あっ俺別行動するわ優希、シキと口コン預かっててくんない?」
優希「いいよ」
優実「あたしも別行動するわちょっといや~な予感がするのよ」
タケシ「カスミと優希ちゃんはどうするんだ?ちなみに俺はズバットと一緒に買い物してくる」
優希「私は散歩したりしとくよ」
カスミ「私はタケシに付き合うわ」
優奈「じゃ夕方になったらこのポケセンに集合な」
優奈以外『おー』
※こっから先は優奈君オンリーだ読みたくない?仕方ないな~予告しておくよ~~~♪
ようやく着いたタマムシジム!!へ?男子禁制なのか?次回、タマムシジム火災!?クサイハナを救え!!にチャンネルオン!!
では優奈ｓｉｄｅ
優奈「たのもー」

???「オッス!!ここは格闘道場ッス!!元はジムだったが近所に住むナツメちゃんがうちのジムからジム資格を奪い隣にジムを建ててから閑古鳥ッス!!おかげで今は筋肉モリモリマッチョのゲイか格闘技を覚えるために通っている少年少女だけッス」

ナツメ『奪ってはいないわ後、私はゲーム基準らしいわってなんの話!?』

優奈「ならまともじゃん護身術講座みたいなもんだな」

???「やはりポケモンを持つならジムじゃないとダメッスよ」

優奈「ならこうすりゃいいじゃん新米トレーナーに格闘タイプの特徴や強さ弱点を教えたりするとかさそして空き時間に格闘教室を開くとか」

???「おお!!それなら協会に申請したら出きるかも知れない!!」

その後新米トレーナーに元ジムリーダーや現ジムリーダーが教鞭を振るう塾別名格闘塾が開校されるのは別の話…では本編に行こう

優奈「師範さん!!バトルお願いします!!」

師範「構わんよ私のポケモンは強いぞ」

いつの間にかバトルにハッテンしていた

師範「すまんが審判を頼む」

審判「何いってんすか!!師範とはジム創設から一緒じゃないっすか!!これより我が道場師範対チャレンジャーのバトルを行います!!今回は二対二のダブルバトル!!ってダ

ブルバトル!?聞いてないッスヨ!!」
優奈「最近流行り出したバトル方法です」
審判「なるほど…それではバトル開始!!」
師範「行け!!エビワラー、サワムラー」
エビワラー『久しぶりのバトルだ腕がなるぜ!!』
サワムラー『足が唸るぜ!!』
優奈「キルリア、ピジョンアクション!!」
キルリア『何でシキじゃないのよ!!』↑レベル的にワンチャン?
ピジョン『あっ…マスター私持病の癪が…』↑レベル的に余裕だと思う
優奈「殺れさもないと焼き鳥だ」
ピジョン『誠心誠意やらしていただきます!!』
審判「試合開始!!」
師範「先手必勝!!エビワラーはフリフリの奴に連続パンチ!サワムラーはピジョンにけたぐり」
優奈「キルリア!ピジョンに乗れ!!ピジョンは空を飛ぶだ!!」
ピジョン『姐さん大丈夫ッスか?』
キルリア『後でマスターは壁テニスね…』

優奈「さて、どうしよう?」
師範「エビワラー、サワムラーきあいだめだ!!」
ラッシャイ!!
優奈「キルリア!!ピジョンから飛び降りながらサイキネ出来るか?」
キルリア『無茶苦茶言わないでよ!!』
ピジョン『姐さんアッシがサポートします!!』
優奈「今だ!!キルリア砲発射!!」
ピジョン『急降下だ!!』
優奈「今だ!!キルリア、サイコキネシス」
キルリア『ちょっと漏らしかけたわ…八つ当たりしてやる!!』
師範「エビワラー、サワムラー!?」
審判「エビワラー、サワムラー戦闘不能!!勝者チャレンジャー!!」
優奈「お疲れちゃんです」
じゃ私もこの辺で

# 第１４話タマムシ火災!?クサイハナを救え

前回、ゲートを破壊した優奈一向はタマムシシティに来ていたのだか…
優奈「ギャンブラーの血が騒ぐぜ」
優実「また始まったよ」
タマムシにあるあの有名なゲームセンターにいた
※マンションの屋上にいるポケモン？知らない子ですね
タケシ「あの…優奈さんは一体…」
優奈「ヒャッハ～!!連チャンだぜぇ!!皿たんねぇぞ!!さっさと来やがれ!!」
優実「優はバカみたいに運がある日があるのよ」
優奈「おいおい、玉切れかよ!!ケッ!!シケてやがる」
優実「このようにバカ勝ちしたりするのよ…」
※よゐこ、悪い子はパチンコ店や雀荘、競馬場や競艇場、競輪場には行かないようにね
優奈「いや～久しぶりにたんまり貰った貰った!!しばらくはいいかな～」
※只今の所持金∞カンスト？知らない機能だな

優実「しかも引き際を知っているからタチが悪い」
優奈「狐式達ににお土産買うか」
優希「ところでお兄ちゃん？ジム戦は？」
優奈「門前払いされたから腹いせだ」
タケシ「門前払い？おかしいな、エリカさんはそんな事しないぞ」
カスミ「そうね、あのぽわぽわなエリカさんがするはずないわ」
優奈「何でも最近悪質な覗き魔がいるらしくてね～」
優希「お兄ちゃんが犯人なわけないか」
優奈「いつも言っているが俺は日向と優狐一筋だ」
優実「噂をすればなんとやらね」
???「くあ～ポカポカ陽気で眠くなって…」
優奈「スゴいな、寝ながら歩いてるよ」
???『私もできますよ～ぐぅ』
タケシ「エリカさん!?」
優奈「おっと、いきなり大和撫子が抱き付いて来たよいや～モテる男は辛いね♪」
優希「一分前のセリフ」
優奈「んで今からホテルに連れ込めば『まてぇい!!』何奴!?」

???「彼女はこの街のアイドルだ!!お前のような下郎が触れるようなお方ではない!!」
優美「だそうよ」
優奈「さて、狸寝入りしてるｌａｄｙ?さっさと起きな」
エリカ「いつ気づきましたか?」
優奈「息づかいがちょっと甘いなやるなら『むにゃむにゃすりすりスンスンカプカプ』位いれないと俺は騙せないぜ?」
優希「お兄ちゃんは一応妻帯者だからね」
優奈「んにゃたまに優実や不知火、狐式がしてくる」
優実「優?後でオハナシね」
優奈「絶望がゴールか…」
メカニック鎮守府の不知火『優奈さん…オハナシがあります』
では、戻ろ『火事だー!!』いっきなりだなおい!
優奈「野次馬～」
火元はタマムシジムらしいぞ!!
エリカ「え!?」
すたすた
此方燃えてるジム

エリカ「皆さんご無事ですか!?」
???「エリカさん!?実はエリカさんのクサイハナが逃げ遅れてしまい…」
エリカ「クサイハナが!?」
タケシ「エリカさんのクサイハナって確か…」
エリカ「私が初めてゲットしたポケモンです…」
優希「お兄ちゃん、なんとかでき『ヒャッハー!!』あり?」
???「消化開始!!」
優奈「頼んだぞウォーターキリング」
数分後…
ウォーターキリング「爆鎮完了!!後、耐火扉の向こうに弱いが生体反応あったぞ」
優奈「サンキュー」
エリカ「クサイハナ!?」
クサイハナ「クッ…」
エリカ「早くポケモンセンターに行かなきゃ」
パラリラパラリラ
此方ポケセン
ジョーイ「少し煙を吸っただけよ」

エリカ「よかった…」
優奈「そんじゃま行くか…」
優希「お兄ちゃん!?」
優奈「…」
優実「無理したらプンプンだからな～」
締まらね～
???「これで全て完了だな」
???「我らに楯突くからだ…」
優奈「ちわーッス地獄への案内人でーすってな訳でシキ、高威力手裏剣」
シキ『南無阿弥陀仏』
???『ぎゃぁぁ!?』
その後駆けつけたジュンサーは『忍者!?』と叫んだそうな
～～～♪
オーキド博士に呼ばれた優奈達次回は図鑑パワーアップを予定しておりますので気長にお待ち下さい

# 第１５話図鑑パワーアップ

タマムシジム火災が新聞に載った前回、優奈達はマサラタウンのオーキド研究所にいた

優奈「来たぞー」

オーキド「待っておったぞ!!早速だが図鑑を見せてくれんか？」

三角三兄妹『ほい』

オーキド「フムフム…舐めとんのか!!」

優奈「約８５０近くいるのに１５１しか見つけれない爺よかましだろ」

オーキド「何を言っている？この世界には１５１しかおらんぞ」

ピッ

楽屋裏

優奈「どする？」

優希「斜め叩く？」

優実「とりあえずはい、隼人がアローラまでの図鑑用意してたから渡すわ」

優奈「今まで出さなかったのが不思議で仕方ない」

優実「ジョーカーは最期までってね♪」
優希「意味が違うよね!?」
優奈「んじゃ戻ろうほい図鑑」
オーキド「なんじゃ!?儂の知らんポケモンばかりいや、こいつは!?」
優奈「知り合いがいたのか？」
オーキド「セレビィか…儂の友達でな」
要約すると若かりし頃の博士は謎のポケモンと共に時空移動をし冒険をしたらしい
オーキド「確か、ピカチュウを肩に乗せていた少年がいたの後、マキシマムミスミーとか聞こえたような…」
優奈「やはり爺だな」
オーキド「後、サカキさん所の二人が悪さしてたのぅ」
優奈「平行世界だな」
優希「いつものお兄ちゃんだね」
優実「優なら余裕ね」
タケシ「平行世界？」
優奈「分かりやすく言えば木だな」
優実「幹が本流で枝が分岐ね」

優希「もっと分かりやすく言えばイーブイね」
※超ざっくりです理解できないのならＷｉｋｉｐｅｄｉａを見よう!!
優希「そういやカスミは？」
タケシ「庭じゃないのか？」
優奈「水ポケエリアに縛って放置たい!!」
優希「あ～なんか想像できたかも…」
一方カスミは…
カスミ「触りたい…触りたい!!」
水ポケ達を眺めていた
扱いが酷い？気にするな!!
優奈「はよ二人の図鑑パワーアップよろ」
オーキド「お前はいいのか？」
優奈「知り合いのロリコンがオバテクにしてな」
タケシ「薪と砂利は驚いた」
優希「鈴木さんは変態？メカニックだからね!!」
優奈「『閲覧規制』しながら開発してる日もあるからな」
タケシ「相手は大丈夫なのか…」

優奈「ゆき曰くソフトタッチでたまに速射押し込みらしい」
優実「ヤバいわね」
オーキド「ほれ、ちょっとバージョンアップさせたぞ」
優希「ありがとうございます!!」
バージョンアップした図鑑を手に入れた!!
～～～♪
ぷぴ～♪次回は眠れる通路のデカい奴を予定しておりますので気長にお待ちください
とりあえずポケモン図鑑のスペックをば…
優奈のポケモン図鑑、カントー地方からガラル地方まで網羅し電話と神話、伝承系解説機能とポケモンＯＫな食事マップと特売チラシが入っている
優希＆優実の図鑑、１５１匹＋αが入っている
因みにサトシはクチバに着いた所シゲル?タマムシじゃね?

# 第１６話眠れる通路のデカい奴

前回マサラタウンにさよならババイした優奈達はタマムシに戻っていた…が
優奈「ヒャッハー!!!ドル箱じゃぁぁ!!」
優希「ゴトしてない？」
優実「正確には釘師の裏読みね」
タケシ「あの～優奈さんの後ろに鼻の尖っていている男とざわ…ざわ…って見えるのですが…」
カスミ「そういうの苦手なのよ!?」
優希「なら大丈夫かな？」
優実「ソイツなら直ぐスカンピンになるわ」
一時間後～
パンイチの優奈「文無しになった…」
優実「ほらね、はい貴方の服取り返しといたわ」
優奈「あんがとよ!!俺じゃなかったら抱きしめてディープキスしてるぞ」
優実「あら残念♪私的にはしたかったわ」

タケシ「優奈さん冗談でもしないでください」
優希「お兄ちゃんとお姉ちゃんは二人で一人だからね」
カスミ「どういう意味？」
優奈「ちょっと摩訶不思議があってな～」
カクカクシカジカ四角いｍｏｖｅ
優実「んで私と優は分裂したわけよ」
タケシ「だからそういう会話が出来るんだな」
優奈「そうゆうこと」
優希「次はヤマブキだね!!」
優奈「いや実はこの前格闘道場に行った帰りに偶然ナツメさんにあってな何でもジムは改装中らしくセキチクに行ってくれだそうだ」
優希「そんな～せっかくやる気出してたのに～」
優実「セキチクにはサファリパークがあるわ」
優希「サファリパーク!?ライオンさんいるかな～？」
タケシ「ポケモンしかいませんよ」
すたすた
こちらアレのいるゲート前なんだけど…

優奈「あんがとよビッグラングル」
ビッグラングル『御安い御用だ!!じゃあなマスター!!』
タケシ「すごいな…」
優希「レッツゴー!!」
こちらはちょっと進んだ場所にあるゲート
係員「ここはサイクリングロードです自転車はありますか?」
優奈「超ＡＩ搭載のバイクとリヤカーならあるぞ」
係員「なら大丈夫ですな一応接触事故に気をつけて下さい」
優奈「わかった」
携帯『カモン!!マイサー&コンテナ』
マイサー『ヘルメットの着用と安全運転を心掛けて下さい』
優希「誰がマイサーに乗るの?」
優実「私か優ね」
優奈「久しぶりにオートだ」
優実「事故らない?」
優奈「大丈夫だろ一応やっとくか…毎度お馴染みバイクが走ります、気をつけて行きましょう」

カラカラカラ
優奈「中々の眺めだな～」
優実「事故らないわね」
マイサー『ふふん♪』
サイクリングロードを抜けたらセキチクは目の前だ!!
～～～♪
優希はサファリパークにタケシとカスミは買い物に俺と優実はジムにいた次回忍者対決!!シキ対ゴルバットを予定しておりますので気長にお待ち下さい

# 第17話忍者対決!!シキ対ゴルバット

前回タマムシを抜けサイクリングロードを爆走した優奈一向はセキチクに来ていた
優奈「ポケモン図鑑解説よろ」
ポケモン図鑑『セキチクにはサファリパークがあり近くにはサファリパークの園長さんの家があります後、セキチクにはジムがありジムリーダーはとある忍者一族の子孫らしいです』
優実「結構いいじゃない」
優奈「メカニックに感謝だな」
一方そのメカニックは…
メカニック『ヤンデレゆきちゃんに愛されて眠れない…』
明らかに詰んでいた、では戻ろう
優奈「どする?」
タケシ「最近包丁の切れ味が悪くなったからな砥石ついでに食材の補充をしてくる」
カスミ「タケシ、私も付き合うわ」
優希「サファリパークに行ってくる!!ライオンさんいるかな～」

優実「暇だし優に付き合うわ」
優奈「んじゃま夕方に会いましょう」
各々別行動をしているので次回公演の予告を先にしよう
～～～♪
ライオンさんいるかな～？次回は優希ｉｎサファリパークを予定しております
では、優奈&優実ｓｉｄｅ
優奈「ここがジムか」
優実「まるでお屋敷ね」
優奈「何時ものように、たのもー!!」
???「ニン!!よく来たな未来のチャンピオン!!ここセキチクジムは忍者屋敷、見えない壁があるぞ!!一枚だけマジックミラーがあるがな」
優実「悪趣味ね」
優奈「んじゃまやりますか～優実、キルリアとロコンとピジョン預かってくんない？」
優実「はいはい」
優奈「シキ、スタートアップ」
シキ『拙者と同じ忍でござるか』
すたすたニンニン

???「私はキョウ!!忍の子孫だ!!」
優奈「俺は三角優奈!!通りすがりの嵐だ!!」
シキ『我はゲッコウガのシキ!!忍だ!!』↑レベル的に余裕
優実「シキ?ゲコゲコだからわからないわよ」
ロコン『シキお兄ちゃんがんばれ～』↑レベル的に厳しい
キルリア『頑張りなさい』↑余裕
ピジョン『アニキ!!がんばるっすよ!!』↑もうちょいかな～
ジャッジ「これよりジムリーダーキョウとチャレンジャー優奈の試合を始める!!使用ポケモンは一体!!始め!!」
キョウ「行け!!ゴルバット!!」
優奈「シキ…スタート…」
キョウ「知らぬポケモンだな…ゴルバット気を付けよ!!」
優奈「かなりなついてるな…シキ、手裏剣!!」
シキ『ニンニン』
キョウ「かわして翼で打つ!!」
シキ『ヤバい…グベ!?』
優奈「どする?」

シキ『やれるでござる!!』
キョウ「どくどく!!」
優奈「いあいぎりを回転させてお返しだ!!」
シキ『私のトレーナーは無理難題を言う…だがなぜか出来る拙者がいる…』
蓮の葉装備の優奈「跳ばすなよ～」
キョウ「ならば吸血!!」
優奈「もらったぁぁ!!シキ、背負い投げしていあいぎりで突き刺せ!!」
キョウ「何!?ゴルバット!!」
シキ『拙者もまだまだでござ…る…』
ジャッジ「チャレンジャーのポケモン戦闘不能!!ジムリーダーの勝ち!!よって勝者キョウ!!」
優奈「お疲れ様」
優実「残念ね～まさかどくどくが当たってたなんて」
優奈「うっせぇ」
キョウ「また来るがよい、いつでも相手にどうした!?ゴルバット!?」
おや?ゴルバットのようすが…おめでとう!!ゴルバットはクロバットに進化した!!
キョウ「進化した…」

優奈「ちょっと失礼」
ポケモン図鑑『クロバット、ゴルバットがトレーナーとの友情により進化したポケモン正確にはなつき進化である』
キョウ「なるほど…よろしく頼むぞクロバット!!」
とうとう負けてしまったが進化をみれたしまあいっか!!ちょっと強くなったキョウのクロバットに勝ち目はあるのか!?

# 第18話優希ｉｎサファリパーク

前回のあらすじ優奈が負けた
優実「本編よ」
では優奈君が負けたこと事態知らない優希ちゃんはルナに乗ってサファリパークでライオンを探していたとりあえずインドゾウは見つかったもよう
優希「ライオンさんいないな～」
ルナ『ライオンですか…』
優希「うん!!凄くてかっこいいんだよ!!」
鎮守府にいるレオアース『今、妹殿に褒められたような…』
ルナ『カロス地方と言う所にはカエンジシと言うポケモンがいるとかなんでも首周りがフサフサだそうな』
優希「ライオンさんだね!!後でお兄ちゃんの図鑑見せてもらおうっと!!」
※優希曰く威厳があり首周りがフサフサならライオンさんである
ルナ『時に優希殿なしてライオンさんとやらを探しているのだ?』
優希「ライオンさんが大好きだからだよ!!」

その時である!!見よ!!ハンチング帽と猟銃を持った悪人見たいな奴がよろよろ歩く小さなネコみたいなのを撃とうとしている!!
優希「ルナ!!私を降ろしたら低威力コメットパンチ!!」
ルナ『手加減か…なかなか難しいものだ…』
悪人「ぐべぁ!?」
優希「大丈夫!?」
ネコみたいなの『グルァ…』
ルナ『ひとまずボールに入れてポケモンセンターにいきますよ!!』
優希「うん!!」
優希は???を仮ゲットした
シュン
此方はポケモンセンター
ジョーイ「なんて事!?貴女トレーナーでしょ!!こんなになるまで何故連れてこなかったの!!」
優希「私じゃありません!!サファリパークで襲われていたんです!!」
ジョーイ「なんですって!?また密猟!?ジュンサーさんに連絡しなきゃ!?」
優奈「お帰り～」

優希「お兄ちゃん!!どこ行ってたの?」
優奈「ジム行って負けてきた!!いや~毒消しいるぞこりゃ」
???「私も忘れるな~」
優希「お姉ちゃんいたの!?」
ボロ雑巾の優実「いたぞ~」
優奈「ロコンの世話わりいな」
優実「全く、まあいいわ久しぶりに優とデート出来たしね~♪」
優奈「ぬかしおる」
優希「そうだ!?お兄ちゃん図鑑見せて!!」
優奈「ほい」
優希「…いない…ジョウトもいない…ホウエン、シンオウ、イッシュ、カロス…いた!!お兄ちゃんシシコってカロスのポケモン?」
優奈「ああ、カロスだがどしたの?」
優希は合流する前の出来事を語りだした
優実「ってことはカロスの船から偶然紛れてクチバに付いたか密猟者から逃げたかよね」
優奈「わからん!!」

優実「こういう時にカロスに知り合いがいたらな～」
～～～♪
優奈「もひもひ？」
???『久しぶりだな三角優奈』
優奈「久しぶりですねカエンジシ」
カエンジシ『私はフラダリだ』
優奈「用件はなんざんす？」
フラダリ『何、プラターヌ博士がシシコの特殊個体が居ないと騒いでいてな最近密猟するやからの話を聞いたからもしやと思ってな』
優奈「ビンゴだ、その特殊個体かもしれないシシコならカントーでしかも俺の妹が仮だがトレーナーになったぞ」
フラダリ『本当か!?ならそのまま手持ちにしてくれないか？君の妹なら無下にしないだろう、プラターヌ博士には言っておくよ』
優奈「了解、じゃカロスによったら博士とこついでにハリケーンカロス支店にも顔出すわ」
フラダリ『そうしてくれマチエール君も待っているぞ』
優奈「じゃ」

優希「誰から?」

優奈「カロスのフラダリさんからどうやら研究所から盗まれたシシコらしいが優希に預けるって」

優希「本当!?ライオンさんゲットかな?」

〜〜〜♪

まずは仲良くならんとな次回はライオンさんとインド象とアローラサンドを来年予定ですので気長にお待ち下さい

# 第１９話マサキからの呼び出しとカントーよ暫しの別れだ

前回のあらすじ～ライオンさんを探していた優希はカロス地方に生息しているシシコを仲間にした
サトシ君？サイクリングロードじゃね？シゲル？知らね
では気を取り直してセキチクを攻略するためにレベリングをしていたある日優奈達はまたゴールデンボールブリッジにいた
優奈「またかよ…」
タケシ「マサキさんの用事とは…」
カスミ「いつ見てもキツい橋ね」
優奈「そりゃこの橋の欄干にある工事主任の像のピー部分を触ると恋愛成就ついでに撫でるように触ると金運アップの迷信があるからな」
タケシ「ガイドブックには載せれないな」
優実「引くわー」
優奈「俺はそんな趣味無いからな」

優希「ブルーさんなら舐めるように触ってそう…」
優奈「あの人は彼氏持ちだしかも優しいぞ」
優実「そうねってかあの人彼氏だったの!?」
優奈「ほらあのブルーさんの隣にいる気弱な人」
希実『あ～』
優奈「ブルーさんが映える絵ならあの人は勇ましい絵だからな」
ブルー『人は見かけによらないからな』
すたすた此方はハナダの岬にあるマサキの家まるでチェイテピラミッド姫路城だな
優奈「マサキいるか～」
マサキ「久しぶりやな～ニュース見てたで!!ホンマすまんな～」
優実「不知火のおかげで助かったけどね」
タケシ「用事とは?」
マサキ「そうやった!!カロス地方で新しいイーブイがあんねんやけど行かへん?」
優奈「直ぐ終わるか?」
マサキ「リーグの受付までには間に合わせるわ」
優奈「お前ら～カロス行くか?」
優希「ライオンさんに会えるなら行く!!」

優実「いい加減手持ち増やしたいから行くわ」
優奈「お二人はどするよ?」
カスミ「暇だし行くわ」
タケシ「新しいポケモンか…行きます」
優奈「てなわけで今から行くわさぁ～て久しぶりのアレ行きますか!!ではお外に移動」
ガチャ
携帯『カモン!!ジャンボカスター!!』
ジャンボカスター「お久しぶりの貴方の背後に爆音迫るジャンボカスターです♪」
優奈「おいおい」
ジャンボカスター「マスターご用件はいかに?」
優奈「コイツら連れてカロス地方まで大丈夫か?」
ジャンボカスター「カロス地方…インプット完了、行けますよ～」
マサキ「スゴいやないか!!喋る飛行機見たの初めてや!!」
優奈「んじゃマサキ後よろしくな～」
カントーを離れ次の舞台は海を越えたカロス地方に続く…
優実「つっても3話位だけどね」

ジャンボカスター『カモメ～カモメ～ペリカ～ン♪』
優奈「あれはホウエン地方に生息しているキャモメとペリッパーな」
ジャンボカスター『間もなくカロス、カロス地方でございます忘れ物のないようお願いします』
続く…
～～～♪
カロスに着いたら先ずは挨拶だな次回、オーキドに次ぐヤバい博士登場!!その名はプラターヌを予定しているので気長にお待ち下さい

# 第２０話オーキドよりヤバい奴!!その名はプラターヌ

前回のあらすじ
マサキに頼まれてカロスに飛んだ!!
優奈「本編だ」
ここはカロス地方の大都市ミアレシティ、プラターヌ博士の研究所やフラダリさんの経営しているカフェ、国際警察のハンサムが借りている事務所、ブティックにシアターにジムそして、喫茶ハリケーンミアレ支店があった!!ってか何店舗あんだよ!!
優奈「ただいま～」
???「お帰り!!優奈お兄ちゃん!!」
???「ふにゃ!!」
優奈「いい子にしてたか?マチエールにもこう」
マチエール「うん!!フラダリさんやカルネさんが手伝いに来たりハンサムさんの手伝いしてたら不良の子達と知り合いになってたまにだけど手伝いに来たりしてるよ!!」
もこう「ふにゃ!!」
タケシ「優奈さんって一体…」

優奈「通りすがりの破天荒な嵐さ♪んじゃま回想いこか？」
遡ること生き霊する前優奈はカロスにいた
優奈「大都市だな～ってもスリはいるな…古今流…しなやす!!」
スリ「ぐはっ!?」
優奈「えっと～俺の財布に～博士の財布に～って博士!?」
???「ふにゃ!!」
優奈「んだ？このにゃんこは？」
にゃんこ「ふにゃ!!」
優奈「着いてこいか…仕方ない博士の財布は後だな」
すたすた
此方は光あれば闇もあるミアレシティの裏路地…死んだ魚の目をした子どもが沢山いた
優奈「ストリートチルドレンか…」
にゃんこ「ふにゃ!!」
優奈「マジかー」
そこには息絶え絶えな少女が横になっていた!!
優奈「風邪かはたまた密猟の流れ弾かだな」

にゃんこ「ふにゃ!!」
優奈「わーてるよ、さて…助けた後どうすっぺ?」
にゃんこ「ふにゃ…」
優奈「ふんふむよし、我流始今流奥義…届け物は配達ボックスへ!!」
ふにょふにょふにょ～
此方は困った時の壱逢世界にあるドクター相模の隠れ家
優奈「わりぃな急患だ!!」
ドクター相模「どこで拾って来たんだ?」
優奈「フランス」
ドクター相模「ナンデもありだな!!仕方ねぇ治療費は優子ちゃんの飯で構わんよ」
優奈「サンキュー」
にゃんこ「ふにゃ!!」
ドクター相模「優奈、この猫っぽいのはなんだ?」
優奈「にゃんこが教えてくれたんだいわば命の恩猫だな」
ドクター相模「そうかお手柄だな」
にゃんこ「ふにゃ!!」
では戻ろう

優奈「ってなのがあってなここはちょいとシバいたらくれたから改装してサ店にしたんだ」
優希「道理でプロローグにいたんだね」
優奈「メタいが本当はサポートの予定だったんだがな」
マチエール「後は博士（笑）もたまにだけど来てるよ」
優奈「（笑）がか？」
優希「知り合い？」
優奈「オーキドよりヤベー博士だ」
優実「そんなにヤバいの？」
優奈「オーキドの爺さんはカントーのポケモン約9割見つけてんじゃんここの博士は『メガ進化はこの地方独自なので他の地方には無いよ』だぞカントーとホウエンで確認はされてんのにさぁ」
※情報が遅いのは距離的な関係です
???「おや？君は…あの時の少年かい？」
優奈「ようプラターヌ博士」
プラターヌ博士「君が来たってことはシシコは無事なんだね!!」
優奈「カエンジシから聞いたのかよ…今はコイツの手持ちだからな」

優希「ちょっとお兄ちゃん!?」
プラターヌ博士「君がシシコのトレーナーだね?僕はプラターヌ、皆からはポケモン博士と呼ばれて『逝きなさい!!』ぐべあ!?」
優希「ルナ!?何してるの!?」
ルナ『ごめんあそばせ♪新人がプルプル震えてたからヤっちゃった♪』
優奈「バレパンかよ!?」
優実「しかも加速の付いたバレパンね…」
プラターヌ博士「君のポケモンはしつけがなってないな」
優奈「お～白衣とパンツ以外剥がれた野郎にゃ言われたくないな」
優実「オーキドのじいさんは無傷よそれに比べて貴方はまだまだね」
奈実『これだから新米は…』
タケシ「二人とも落ち着いてください」
優希「久しぶりにみたな～お兄ちゃんがキレてるの」
カスミ「止めなくて大丈夫なの!?」
優希「大丈夫だよ?すぐ止むから」
マチエール「二人とも仲いいね～もこう」
もこう「ふにゃ!!」

優奈「これが仲良しに見えるなら世は世紀末だな」
優実「しかも滅亡寸前のね」
???「来たぞ」
優奈「先週振りだなカエンジシ」
何か出た!!
～～～♪
あっ!!野生の服を着た二足歩行のカエンジシが現れた!!次回、サカキよりヤベー親玉フラダリ!!ついでにルナ対チャンピオンカルネを予定してたいるので気長にお待ち下さい

# 第２１話サカキより過激な男その名はカエンジシとついでにルナ対メガサーナイト

前回のあらすじ～
カロスに飛んだ優奈達はハリケーンミアレ支店の店長代理マチエールと出会った因みにルナは欠伸しながら戻りました
ハリケーン支店のフリフリエプロン不知火『優奈さんの妻は私ぬい…本編です』
では話はそのままに前回でてきたカエンジシことフラダリさんに優希は目を輝かせていた
優希「お兄ちゃん!?ライオンさんだよ!!二足歩行で喋るライオンさんがいるよ!!」
優奈「落ち着け、あれは人間で髪はファッションだ」
優希「そうなの!?ライオンさんじゃないんだ…」
フラダリ「なんかすまないな…お詫びといってはなんだが行けカエンジシ!!」
優希「わ～!!ライオンさんだ!!」
優奈「やはり手持ちにいたか」
フラダリ「私のパートナーだからな」

優希「ライオンさん、私は優希優しさの嵐だよそして出て来て皆!!
ルナ『あら?久しぶりね』
ララ『は、はじめまして!!』
ミロカロス『はじめまして』
シシコ『がう?』
フラダリ「礼儀正しいポケモン達だな後、プラターヌよ落ち着け」
プラターヌ「だってシシコがいるんだよ!?凄く心配したんだからな!!」
優奈「安心しろ、のびのびと過ごしていたからな」
プラターヌ「でも…」
優希「博士もライオンさんをモフモフしたらいいよ!!ライオンさん大丈夫?」
カエンジシ『手荒に扱ったら噛むぞ』
優希「大丈夫!!…かな?」
プラターヌ「フカフカだぁ…毛並みのいいカエンジシの鬣はクッションの役割があるのか!!新発見だ!!ありがとうカエンジシ!!」
フラダリ「私のカエンジシなんだが…」
一方、優実はいつの間にか手持ちになったルナと一緒に誰かとバトルをしようとしていた

優実「すみませんカルネさん」
カルネ「大丈夫よ!!じゃあはじめましょう?」
優実「ルナ!!スタートユアアタック!!」
ルナ『なかなかの威圧ね楽しみだわ』
カルネ「サーナイト行きなさい!!」
巻き込まれた助手「試合開始!!」
優実「小手調べね…シャドーボール!!」
カルネ「サイコキネシスで返しなさい」
ルナ『やるわね…』
優実「かわしてコメットパンチ!!」
ルナ『ちょっと強いだけね…出直して来なさい?まぁ次も私が勝つけどね』
カルネ「かわしなさい!!」
優実「（場慣れし過ぎてるわね…どうしよう?）ルナ、行ける?」
ルナ『誰にものを言ってるのかしら?私はシキパーティー最高にして逆転の神に愛されているメタグロスのルナメタルよ…そんじょそこらのサーナイトに負けたとあったらヒイロやウイング、ラウラにシバかれるわ!!』
※作者のサファイアとＹの手持ちです

優実「なら派手に『切りたくないけど切るわ!!サーナイト、メガシンカ!!』何かテラ行きそうね～」
ルナ『あの子もなれるかしらね～それとちょっとマズイわ…』
優実「(こんな時に優なら…)ルナ、サイキネ!!」
カルネ「(いまひとつの技を何故?)こちらもサイコキネシス!!」
優実「(ちょっとヤバイわね～)見つけた!!ルナ、突貫しながら低威力シャドーボール連続発射!!」
ルナ『無理難題を言うマスター代理ね…でも、それに従うアタシもアタシね…』
カルネ「かわし『大出力コメットパンチ!!』え!?」
ルナ『私をここまで追い詰めたのは貴女で六匹目よ誇りなさいそして次は完膚なきまでに一切の反撃も出来ない位に叩き潰すわ…まあ、次に来るのは何時かは知らないけど私が来る前に引退は辞めてね』
助手「サーナイト戦闘不能!!メタグロスの勝ち!!」
優実「カルネさんありがとうございます」
カルネ「次は勝たせてもらうわ…」
優奈「終わったか～?」
優実「何とかね後、優希ルナボロボロにしてごめん」

優希「大丈夫!!ルナも久しぶりに戦って何かキラキラしてるよ」
ルナ『ちょっと鍛え直そうかしら?』
ポン
シキ『ルナ殿付き合うで御座る』
ルナ『頼むわ御座るガエル』
優奈「優実、明日の朝にカントーに帰るからな」
優実「なかなか急ねまるで『閲覧規制』だわ」
優奈「ちょっと大会が前倒しになるらしくてなそれとタケカスの家の事情でな」
優実「なら仕方ないわ」
タケシ「まさかジム引き継ぎ書類の不備が見つかるとは…」
カスミ「まさかお姉ちゃん達が日帰り温泉旅行に行くなんて…」
一路再びカントーへ…
～～～♪
リベンジだ!!次回、セキクチジム忍者対決!!シキＶＳクロバットを予定しているので気長にお待ちください

# 第２２話優奈だけちょっと寄り道編その壱とりあえずアルセウスはシバキ殺そうの巻

前回、カロスを離れカントーに帰った優奈達一行だが…
優希「お兄ちゃん…」
優実「まさか爆風に飛ばされるなんて…」
ではその優奈はというと
優奈「暗いね～」
闇にいた
???『来たか』
優奈「んだぁ？」
???『お前に行ってもらいたい場所がある』
優奈「拒否権は？」
???『ない』
優奈「ふうん、なら帰るわバハハ～い」
パリッ

???『何!?』
優奈「反転世界かよ…」
???『ま、待ていや待って下さい!!』
優奈「俺さっさと帰りたいんだが」
???『貴方に頼みがあるんです!!このままでは近い未来にＤＰ編が無くなるのです!!』
優奈「まず名乗れ」
???『私はアルセウス、この世界を作った神です』
優奈「神様なら仕方ない俺は三角優奈、通りすがりのレプリカだがドクターライダーや探偵ライダーのアイテムを使う嵐だ」
アルセウス『優奈さんにはヒスイ地方に行って貰います』
優奈「いきなしだなぁおい!!』
アルセウス『実は…』
かいつまんで説明しよう!!どうやら平行世界のアルセウスがこの世界でシンオウ編の主人公をする予定の子を拉致したうえに何の修正もしてないらしく助けてくれないか?とたのみに来たらしい
優奈「で、元凶はどしたの?」
アルセウス『のうのうとしています!!』

優奈「わかったで、その主人公ちゃんは今どこら辺だ？」
アルセウス『一つ目の途中ですね』
優奈「なら武力介入してさくっと助けるか♪」
アルセウス『頼みます…』
優奈「んじゃま行くぜ!!」
では、場所は変わり此方はヒスイ地方にあるコトブキ村
？？？？？「急いでバサギリを何とかしないと…」
？？？？？「待って下さい、ヒカリさん」
ヒカリ「ウォロさん」
ウォロ「話を聞かせて貰いました!!私もお手伝いさせて下さい」
ヒカリ「ウォロさんがいたら百人力ね!!」
？？？？？「何だありゃ!?」
？？？？？「また空から何か降ってきたぞ!!」
ちゅど～～～ん!!
ウォロ「アッチは空地ですね」
ヒカリ「行きましょう!!」
首だけ出ている優奈「あのクソ神やっぱり殺そうそうしよう『あの～』んだ？」

ヒカリ「大丈夫ですか？」
優奈「大丈夫に見えるか？」
ヒカリ「晒し首ですね」
優奈「ちょっと失礼…ふんぬ!!」
ヒカリ「クレーターが割れてる!?」
優奈「ふい～全く…俺は優奈!!君は？」
ヒカリ「いきなり!?私はヒカリです」
優奈「ヒカリだって!?こりゃ運がいい君を迎えに来たのだよ」
ヒカリ「本当ですか!?」
優奈「アルセウスに頼まれてなっと忘れてた古今流…奈落崩し!!」
空の色が可笑しいぞ!!ヒカリとか言う余所者が来たからだ!!
ちょうど～～～～～ん!!
優奈「やあ、クソ神気分はどうだい？」
クソ神『最悪だ…』
優奈「さて、こっちのシマを荒らしたケジメは付けて貰おうか？」
クソ神『ふざけるな!!私は何もしていない!!』
優奈「してんだよな～平行世界のヒカリちゃんを拉致し家族のケアもしてないこれは

犯罪だないやはや神も落ちたな」
クソ神『私は神だ!!何をしても許される』
優奈「許されないんだよ!!お～い壱セウス～」
アルセウス『ふざけた名をつけるな!!』
優奈「見分けだ」
壱セウス『今は甘んじて受けよう…』
ヒカリ「アルセウスが二匹いる…」
ウォロ「神が二人もいる!?」
壱セウス『この世界の子よ私はアルセウス、こっちの首しか出ていないクソ見たいな雑魚とは違い一応の分別は持ち合わせている筈だ…』
優奈「コイツハバカデアレハカミオケ?」
ヒカリ「何で片言?」
その時である!!
???「大変だぁ～!!」
優奈「何かあったのか?」
ヒカリ「実は『私が説明しましょう』アルセウス!?」
アルセウス『なぁに、下等な人間が我々を従えれるのか試しているだけです』

※作者の超個人的な考えです
優奈「へぇ～で？」
壱セウス『ヒカリよ私が仲間になろう、直ぐ終わらせるぞ』
ヒカリは壱セウスを手にいれた!!
優奈「じゃ、俺はこのバカをシバいとくわ」
アルセウス『勝てると思うなよ!!』
無事に帰れるかね～
～～～～♪
ヒカリがヌシをラベンしている間優奈は経験値ついでに神と闘う次回、その弐神対嵐コトブキ村よ永遠に…を予定しているので気長にお待ち下さい

# 第２３話神対馬鹿、コトブキ村よ永遠に…

前回の分かりやす～～～～～いあらすじ…

何をトチ狂ったのか知らんが噴射口前にいた優奈は爆風に巻き込まれ次元の彼方でこの世界の神ことアルセウスに『我が子が平行世界の我に拉致されアフターケアもされていないから助けてくれ』と頼まれたのだがどうなることやら

優希「まぁ、お兄ちゃんだし大丈夫!! 本編いっくよー!!」

こちらコトブキ村にある訓練所にボロボロアルセウス（大爆笑）と改造学ランではなく着流し姿の優奈とゲッコウガのシキ、時と次元を越えて駆けつけてきたゴウカザルのカズヤ、リザードンのカミナ、アシレーヌのアシカ、バシャーモのヒイロ、スイクンのスイがいた

トドのつまりフルボッコであるメタグロスのルナとエースバーンのストライカーとクワッスのダック？お留守番です

ヒカリちゃん？壱逢アルセウスこと壱セウスの圧倒的な力でラベンしてたり松竹梅をコキャしてたり『ムラハチ!! ムラハチ!!』してくる奴らをコキャしてたり何か季節感バグり捲っているリーダーを雪に埋めてかき氷を食べさせて風邪をひかしたり貴重な

骨を投げてガーディーと遊んだりしていた
優奈「何で土下座？してんの？」
アルセウス（大爆笑）『お願いします!!何でもするので見逃して下さい』
優奈「ん？今何でもするって言ったね？なら世界に返そうや」
アルセウス（大爆笑）『それは出来ん!!』
優奈「何故？」
アルセウス（大爆笑）『そう世界を変えたのだ!!貴様の頑張りは無駄になっているのだよ!!って話を聞け!!』
優奈「もしもし～隼人いる～？」
???『隼人様なら明日締め切りの書類を徹夜して仕上げて風呂にも入らず今寝てますね』
優奈「じゃ伝言をばバカがやらかしたから世界破壊するわとついでに君は誰？」
???『わかりました伝えておきます後、私はかわいいかわいい天子ちゃんと覚えてくださいね♪』
優奈「うい」
天子『では』

優奈「ってなわけで破壊しま～す♪恨むならそこの神（大爆笑）を恨んでな～」
村人「ふざけるな!!」
優奈「え～？俺はヒカリちゃん連れて帰れてラッキー♪あんたらは部外者が消えてラッキー♪のｗｉｎ―ｗｉｎじゃんそれとハンムラビ法典って知ってる？」
???「黙って聞いていたら私達には不利にしかきこえなかったが？」
優奈「話せる奴が来たな失礼だがｌａｄｙ名前はなんだい？俺は三角優奈今は世界の破壊者だ」
???「私はシマボシこの村でギンガ団調査隊の隊長をしている」
優奈「シマボシさん的にはどうしたい？」
シマボシ「彼女には恩がある…だから無礼を承知で頼む!!私の命と引き換えに…我々の生きる世界を破壊しないでくれ!!」
優奈「顔を上げてくれよ、第一俺が破壊するのは世界だがこのバカが書き換えた奴であってあんたらの命じゃないからな」
シマボシ「何？」
優奈「それにアンタはアイツに似てんだよ…バカ見たいに走っている考古学者によ」
???「にいる考古学者『ぐふっ、誰か噂をしているな…』
???『大丈夫ですか？』

考古学者『大丈夫だ』
優奈「さて、あの裂け目だな…真古始今流…禁断業…因果応報無礼斬!!」
シマボシ「真空波だと!?」
優奈「コイツは俺が編み出したオリジナルでな、さぁバカセウス確認しな!!」
バカセウス「何!?理破壊しただと!?」
???「古始今流は弱き者の声ある時にくるからな～」
優奈「何奴!?」
???「俺は今代古始今流継承者の八郎だ」
優奈「失礼した、私は古始今流最期の師を持つ優奈と申す」
???『私は活人剣となった古始今流最期の継承者稲荷源九郎だ』
八郎「活人剣だぁ？」
源九郎『左様、古始今流は私の代で活人剣となったのだが後継を作るのを忘れてな今は攻めの古今流と護りの始今流そして我流に分かれているよ』
優奈「俺は我流も使えるぞ」
八郎「なるほど、源九郎さん感謝する!!あなたが活人剣にしてくれたおかげで私の荷が降りた」
源九郎『意味がわからないのだが?』

八郎「古始今流は飛天の流れを組む殺人剣であったが私も活人剣にすべく修行をしていたのだが寄る年には勝てんそろそろ後継を作らねばという時にそなたらが来たのだこれは神に感謝せねばならん」

バカセウス「崇め『もう一発逝く?』すみませんでした!!」

優奈「んじゃ帰るわ仲間も一応心配してるだろ」

現代の優希『バッジゲットしたよ!!』

ルナ『余裕ね』

現代の優美『リーグどうしましょ?』

優奈「ヒカリちゃん帰るよ」

ヒカリ「は〜い」

優奈「秘技空間割り!!おっじゃま〜♪」

その後シマボシさんの残した書によると『神を屈服させ全ての理を破壊し1人の少女と共に次元へと消えて行った…もし子孫か研究者が読んでいたら告げる…出会っても関わるな』と書かれていたそうな…

では戻り此方はシンオウ地方のフタバタウンにあるヒカリちゃんの家

優奈「まさか次元酔いするとはな」

ヒカリ「はらほらひれ〜」

優奈「夜だし布団で寝かしとくか夢だと思うだろじゃあな」
壱セウス『ありがとう』
優奈「またな…さて戻るか」
無事再開出来るかね？
～～～♪
ピーンチ!!次回、サイクリングロード!!ＶＳ自転車暴走族と伝説の頭を予定しているので気長にお待ち下さい

# 第２４輪サイクリングロード!!ＶＳ自転車暴走族

前回歴史を変えた優奈君無事に再開出来るかね？
優奈「バカのおかげでシキ以外の経験値ウハウハよ」
シキ『始まるで御座る』
何故かセキチクを無事に攻略した優希と無事に合流できたタケカスは次なる目的地ヤマブキシティを目指しサイクリングロードにいた
優希「風が気持ちいい～けど凄くベタつく…」
優美「そりゃすぐそこは海だからねそういえば優はシンオウ地方にいるらしいわ」
タケシ「シンオウ地方と言えば北の方ですね」
優美「なんでも平行世界の神がこっちの管轄を荒らしたから手伝いに行ってたそうよ？オーキドの爺さんからシンオウの伝承聞けないかしら？」
何処かにいるオーキドの爺さん『シンオウには先輩の博士がいるぞ』
優希「ライオンさんいる？」
優美「いないわ」
優希「ならいいかな」

カスミ「なんでよ」
優希「ライオンさんがいたらいくよ」
一方シンオウとカントーの中間にいる我らが優奈君は平行世界のヒスイの伝承が流れていたらしくちょうどリーグも無く暇をしていたシンオウチャンピオンシロナと一緒にいた
優奈「マスタースパイラル呼ぼうかな?」
シロナ「別に急ぐものでもないでしょ?」
優奈「と言ってもな~シロナさんや約3ヶ月後にリーグの受付が締め切るから急がないといかんのよ」
シロナ「バッチは何個?」
優奈「平行世界でいいなら６８個で今世界なら４つだ」
シロナ「検定試験受けたらいいじゃない」
優奈「受けたけどちょっとイラッときたからルール無視して教官対エクスレッグ&ザシアンしたら検定会場出禁にされたのよ」
シロナ「聞かないでおくわ…」
優奈「懸命な判断痛み入る」
シロナ「後どの位でカントー『君は今!!カントー地方への第一歩を踏み出した!!』入っ

たようね」
優奈「あれ呼ぶか…」
携帯『カモン!!レモンちゃん!!』
シロナ「自転車?」
優奈「そ、2ケツで行くぞ」
チリンチリン
では場所を移して優希達は…パラリラパラリラ自転車暴走族に絡まれていた
優希「さっさとお風呂入りたいからルナ!!広範囲地震!!」
ルナ『このご時世に地震はできないわねサイキネで軽く回転させるわ』
暴走族『ぎゃはぁぁぁ!!』
???「いやっほ〜い!!」
優美「あら?お帰り優、美人とデートかしら?」
優奈「ちょうど博士に用があるらしくなカントー入って連絡したらタマムシにいるみたいでなショッカしまくってきた」
シロナ「はらほろひれ〜」
優希「そうだった!!ジャーン!!セキチクのバッジゲットしたよ!!」
シロナさんに気付け中の優奈「ルナ無双か?」

優希「ルナとミカとデデンネとサンちゃんは観客でライオンさんとララとこの子のおかげだよ」
???『フッフッフッ』
優奈「まさかのスリーパー…どこで捕獲したのやら」
図鑑『スリーパー、念力が得意最近、催眠アプリみたいに使う変態が多発しているので特に女性トレーナーは注意してください』
優希「スリーパーで悪いことしてた奴を懲らしめたらついてきたの!!」
優美「ありゃ私もキレるし優もキレるわ」
優奈「さいですか」
タケシ「スリーパーを使ってカスミに『閲覧規制』しようとしてましたからねあいつは人間じゃねぇ!!」
カスミ「私は記憶がないからわからないわよ」
優奈「あれか？電ピカ？」
優希「違うかな？」
優美「何でもメイド服着せたかっただけらしい」
優奈「いやいや絶対何かヘマしたら『閲覧規制』とかするタイプだぞそれ」
タケシ「それは許せませんね」

シロナ「もうすぐタマムシに着くわ」
看板『タマムシゲート前カビゴンがいたら諦めて下さい』
優奈「今度は新戦力を見せるか」
すたてく
やはりカビゴンはいた…
携帯『カモン!!ビルドクレーン、ビルドミキサー、ビルドショベル、ビッグラングル!!』
ビルド組&ビッグラングル『武装合体!!ビルドラングル!!』
優奈「頼んだぞ～」
ガチャガチャドロドロペタペタ完了!!
なんということでしょう…カビゴンの周りに道が出来ているではないか!!これによりシオン↓クチバ↓セキチク間が釣りの名所になるのは未来の話
優奈「ちょっと回り道になるが仕方ないよな?」
優希「寝てるのが悪い!!」
優美「あら?シロナさんに迎えかしら?」
優奈「あれは自分をオーキド博士と思い込んでいるちょっとアレな徘徊じいさんだな病院かジュンサー案件だ」

※オーキド博士のアグレッシブさが悪い
オーキド博士?「おお、君がシロナ君じゃな儂はオーキドじゃ」
優奈「もしもし?自分をオーキド博士だと思い込んでいるちょっとアレな人に絡まれてんだが?場所?タマムシ大学前のバス停」
優美「ジュンサー?」
優奈「いや、研究所の職員」
果たしてこのアレな人の正体とは!?そして優奈はリーグに出れるのか!?
～～～～♪
ふへ～次回はタマムシ大学のコイキングを予定しているので気長にお待ち下さい